造　形　秋　田

NO.44（平成19年度）

2008.3

秋田県教育研究会造形部会
秋田県造形教育研究会

本物が消える街

秋田県造形教育研究会　会長　近　藤　久　隆

新しい指導要領がいよいよ現実味を帯びてきた。「これからの時代は感性だ、情緒だ」と声高に叫ばれるわりには、本家本元であるはずの造形教育（図画工作・美術）にこれといった福音はない。人格形成にとって極めて大切だとされる中学生時代の美術の時間は据置である。そうした中で、何やらうるさいくらい目に付くのが「鑑賞」の言葉である。確かにこの部分だけをとらえて見れば、これまでの造形教育では鑑賞指導が弱かったからもっと踏み込んだ指導をしなさい、という文脈で読み取ることができる。もう一つの言葉は、古くて新しい流行り言葉「コミュニケーション」である。この二つが造形教育改革のキーワードとなっているようだ。どちらもそれなりに納得のいくことなのだし、取り立てて気にする必要もないようにも思えるが、こうした図画工作・美術教育の（小さな？）変化を学校教育全体といったロケーションから俯瞰してみると、どうもきれい事では済まされないものが見えてくるのである。ひょっとすると造形教育の顔が大きく変わるかも知れないのだ。

これまで私たちの造形教育は、（「造形」というくらいだから）色や形で表したり材料の性質を生かしながら作品を作るなどの「創る・作る」といった「表現力」を大黒柱に据えて取り組んできたし、今ある答えに縛られない自由感・解放感こそが表現活動の生命線だと信じてきた。（それ故、「鑑賞」もまた、己の「表現」のための「鑑賞」と位置づけていたと思うが如何だろうか。）ところが、この二義的だったはずの「鑑賞」が造形教育の中で存在感を増しつつあるのである。小学校もそうだが、中学校に至っては「我が国の美術や文化に対する指導」が強調されて美術教育の中にドンと鎮座する様相である。そうでなくとも図工・美術の座席（時間枠）が減少し、その限られた座席の中で「鑑賞」が幅をきかせるとなると「表現」の座席数がますます狭くなることは自明である。こうした学校教育における「鑑賞」教育の充実は、生涯学習社会の中での造形教育の存在位置をいみじくも暗示しているように思える。（個の可能性の覚醒を目的にした）個人的な表現領域だったはずの造形教育は、「鑑賞」とか「コミュニケーション」といった文脈の中で、社会的サイズに見合った個性（表現）づくりに大きく傾斜しはじめているような気がしてならないのである。時間にゆとりのある方々が、カルチャー教室に通って気楽に造形表現を学ぶ、そんな気軽なアート感覚が蔓延しているご時世である。（おかげでどの領域においても、アマチュアばかり目に付き「本物」に出会うことがめっきり少なくなった。）近い将来、都会の街中をそれらしい服装でそれらしく歩き、美術館にでもよって芸術作品に足を止め、そしてその作品について気の利いたことを二言三言は語れるといった、「何となく文化人」ぽい日本人が街中を闊歩することになるのだろうか。「表現」に膨大なエネルギーが必要だが、「鑑賞」には多くのエネルギーを必要としない。鑑賞力をもった文化人（？）の育成は、高齢化社会が進行する中で社会全体としてのエネルギーが減少しつつあることの表れなのかも知れない。確かに、造形教育は作家養成のための教育ではないが、できるならば作家として活躍する人材を輩出したいと願うのは、造形教育に携わる教師であれば誰しもの思いだろう。「感性」も「情緒」も「鑑賞力」も、その鋭さのすべては「表現」があってはじめて磨き高められるものである。でき上がった完成物からそのプロセスを分析的に考察し、その文脈で造形教育の未来を構想されては困るのである。人の心の奥底から、ふつふつと湧き上がってくる人間存在へのエモーションが、表現を誘発し社会に変える力となる。上に居られる方々には、言葉では語り尽くせない、（言葉さえも持たない）科学的・論理的でない「暗黙知」が、教科の中に存在することがあまりお気に召さないようだが、造形教育にあまり多くの「形式知」を持ち込んで欲しくない。造形会員の方々にはいずれくるものの価値をよくよく吟味して子どもに与えて欲しいと思うのである。

平成20年度、秋田県造形教育研究大会「大館北秋田大会」の充実を心より祈念したい。

造　形　秋　田

No.44

目　　次

巻頭言　本物が消える街

絶滅危惧種「造形人」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

各郡市造形研究会の活動報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第48回　秋田県児童生徒美術展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

第48回　秋田県児童生徒美術展　話題作一覧（平面の部）・・・・・・・・・14

第48回　秋田県児童生徒美術展　話題作一覧（立体の部）・・・・・・・・・21

第42回　秋田県造形教育セミナー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

　鑑賞授業Ａ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

　鑑賞授業Ｂ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

　全体会・協議 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

　実技研修Ａ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

　実技研修Ｂ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

　実技研修Ｃ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33

impressions of AOMORI・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

『第52回　東北造形研青森大会』から（雑感）・・・・・・・・・・・・・・・・36

平成19年度　秋田県造形教育研究会役員一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・37

平成19年度　秋田県造形教育研究会名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

絶滅危惧種「造形人」

秋田県造形教育研究会顧問　佐　藤　俊　彦
（秋田市立高清水小学校長）

秋田県造形教育研究会の会員は、減少の一途を辿っている。少子化の影響から、学級減が進み、各学校が小規模化している。少教師化の時代、とりわけ図工・美術の教師の採用も少ない。この自然減はやむをえない現象としても、現在本研究会に所属している会員の元気の無さはいかがなものか。もはや「造形人」は、絶滅の危機に遭遇している。

その兆候の一端は、秋田県児童生徒美術展を見れば、明らかである。ここ10年ぐらいの指導レベルの低下は、子どもの作品となって現れている。県内の教室の中から生まれた作品を一堂に集めて審査し、秋田県の最高傑作を展示して、子どもたちの表現力を讃えると共に、教師の授業の研鑽に資するよう開催されてきたものである。しかし、近年の作品を見ると、子どもたち一人一人の個性の開花を促した作品や、感性あふれる生命のほとばしりが感じられない。ただ単に題材を提示し、指導や支援もなしに描かせっぱなしにした作品にも思える。作品の隅々まで神経の行き届いた作品が少なく、教師のアドバイス（支援）が行われていたのだろうかと不安になる。甘やかせた指導が横行していて、授業中に私語が注意もされず、集中できない様子の中で作られたようにも感じられる。

個性は、引き出さなければ発揮しない。更に、引き出したものを、より良く伸ばさないと、指導したとはいえない。引き出すほどの揺さぶりもなしに題材と出会わせ、作業手順で授業しているのかもしれない。しっかりと「個人テーマ」を抱かせ、制作を通して「個人テーマを練り上げる体験」が大事である。到達する目標（ねらい）なしに、子どもを這い回らせては学習とはいえないし、成就感も得られない。図工嫌い、美術嫌いを増産してしまう。

秋田県児童生徒美術展は、秋田県の唯一の全県規模の作品展である。名実共に最高峰にする努力も必要である。審査の在り方を検討中とのことなので、更なる進化を期待したい。また、各地区で行われている展覧会は、そこで止まるべきではない。もっと上の表現を求めて、県の美術展に出品すべきである。県の美術展への出品に対する手間隙論や距離感を埋めるものは、「造形人」としての情熱である。無審査での展示を求めるなどは、言語道断である。

造形教育に携わるものは、子どもたちの個性的な表現をより一層活性化し、作品からその子の命の輝きが感じられるよう、自らの「授業力」を高めていく努力を怠ってはならない。中学校の美術教師は、各学校の中で蛸壺化してはいないか。小学校の図工主任は、学級担任の図画工作を支援できるよう全校をリードしているか。かつて存在した「造形人」と言われる一芸に秀でた達人を目指しているか。各校における少人数での研修の限界を超えるために、秋田県造形教育セミナーで研修を深め、秋田県造形教育研究大会で仲間と語り合い、自己変革を自らに課していく姿勢が強く望まれる。

この冊子が発行されるころには、新しい学習指導要領が告示されていると思うが、今回の改訂は、主要教科の学力向上をねらいとしたように見えるけれども、本来の「生きる力」の育成をどのように捕らえているかを吟味しておかなければ、私たちの教科は「蚊帳の外」に置かれる。PISA型の読解力を育成するという教育改革の趣旨は、学習指導要領にも色濃く反映され、基礎基本ばかりではなく、創造力や表現力、思考力、判断力、そして言語力の育成までを主眼としている。単に受験学力のみに着目しているのではない。底力のある「人間力」の育成をねらっているのだ。県教委が、いかに受験学力の向上を強調しても、文部科学省の基本姿勢と同じように、私たちの教科（図工・美術）を無視しては、学力向上すら望めないということを知らしめるべきなのである。

その理由は、中央教育審議会答申「審議のまとめ」の資料の中にある。中教審では、思考力・判断力・表現力等を育てる学習活動について、次のように分類している。（07年11月）

①体験から感じ取ったことを表現する。（感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などで表現する）
②事実を正確に理解し伝達する。（身近なものの観察を通して、結果を記述し報告する）
③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。（知識を活用して生活に生かす）
④情報を分析・評価し、論述する。（比較・分類・関連付けなど考えるための技法を駆使する）
⑤課題について、構想を立て実践し、評価･改善する。（構想を練り、創作活動を行い、結果を評価）
⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。（予想や仮説の検証でより高次へ）

これらは、まさに造形教育が昔から脈々と受け継いできた「創造的想像を基にした表現の世界」である。表現意欲を出発点とし、テーマ思考を練り上げて、色や形を駆使して制作する過程。構想・表現・鑑賞まで、創造的感性と表象への知恵を発揮し、それらを統合する造形的構成力によって自己表現をしていく。このような「創造的脳内現象」と「手の巧緻性」が相まって、個性的な自己表現が高まっていくのである。このような内面の表出が、絵画・彫刻・デザイン・工芸・造形遊びなどという様式を伴って、豊かな広がりを見せていくのが私たちの「教科の特性」なのである。この意味において、今回の学習指導要領の中核は、私たちの造形教育なのであると言っても過言ではない。

算数・数学のみで学力向上がなされるなら、これほど簡単なことは無い。しかし今は、私たちの造形教育を始めとする実技教科との、バランスの取れた教育課程の保障が望まれているのだ。「生きる力」の学力観のもと、教育課程が歪まないよう主張し、更に造形教育の重要性を説いていくのが、私たちに求められる使命なのだということを確認したい。

授業の原点に立ち戻って、「授業力の向上」に意を尽くそう。注意すべきは次の点である。
①題材との出会わせ方の工夫。（ドラマチックに、取り組んでみたいという意欲が湧いてくるように）
②個人テーマの抱かせ方の工夫。（自らの思いや願いを個性的に、アイデアスケッチや小下図で）
③テーマ追求への創意工夫。（造形要素を駆使して、色や形を工夫する構成力をはぐくんで）
④世界中でたったひとつの作品と触れる鑑賞（感性豊かに受け止め、感動をもって味わえる子に）

その際、新しい学習指導要領を意識するならば、私たちの教科としての学力観である「表現力」について、きちんとした考え方をもって授業に臨まなければならない。注目したいのは、知識にあたる部分の造形要素（色や形の特性などの知識）について、感性を刺激しつつ学ばせることである。暖色や寒色の用い方、バランスやリズム、動性や安定感など、表現において活用できるよう系統立てて教えたいものである。これらは、ここ数回の指導要領の改訂では希薄になってきたものである。しかし、自分の思いを表現するためには、表現する方法を知らずしては、いくらすばらしい思いをもっていても、具現化できないのである。感得すれば、鑑賞にも役立つビジュアルリテラシーとなるのである。

20年ほど前、私たちの先輩が、県教委の各分野に進出していた時期がある。美術の指導主事はもとより、教育センター研修員、道徳の指導主事、生徒指導専任指導主事、管理主事、少年の家所長、事務所長などの重責を担っていたのである。この理由は、私たちの造形教育が、「生きることと学ぶことを区別せずに教えていた」からに他ならない。義務教育においては、「学び」を受験とつなげて指導したり、「部活」を受験条件にしたりといった扱いは、邪道中の邪道である。したがって、造形教育の授業を通して「生き方」をも語れる美術教師（造形人）は、義務教育においては理想の教師像であったのだ。絶滅危惧種であっても、レベルアップしたときは希少価値といわれる。今からでも、遅くはない。少数でも「造形人」は、児童生徒にとっての最高の教師であってほしいと願うのである。

各郡市造形教育研究会の活動報告

鹿角造形教育研究会活動報告

1．会員数　16名

2．組　織　・会　長　　米　澤　喜一郎（平元小学校校長）
　　・副会長　　瀬　川　正　展（尾去沢小学校教頭）
　　・幹　事　　滝　澤　政　夫（八幡平小学校）

3．平成19年度の主な事業

・19.4.26(木)　平成19年度総会（花輪第一中学校）　会員16名
・　5.26(土)　県造形教育研究会総会（秋田市教育研究所）幹事出席
・　8. 7(火)　第42回秋田県造形教育セミナー参加　夏季実技講習会を兼ねる
・　9.21(金)　第１回役員会（花輪市民センター）
　　＜県児童生徒美術展・小中高合同美術展について＞
　　※郡市審査会での立体の審査方法について，小中高合同美術展の会期等について話し合いを行った。
・　10.30(金)　鹿角教育研究会教科授業研究会参加（花輪第二中学校　授業者関清志先生）
・　12. 3(月)　県児童生徒美術展地区審査会及び出品作業（花輪市民センター）
・20.1. 4(金)　県児童生徒美術展展示作業（秋田市文化会館）会長、幹事，理事１名出席
・　〃　県造形教育研究会臨時総会　会長，幹事出席
・　1.10(木)　県児童生徒美術展搬出作業 幹事出席
・　1.19(土)～22(火)　第19回「鹿角小・中・高合同美術展」（花輪市民センターホール）
　　＜パネル８枚を横につなぎ、４列で展示＞
　　1.18(金)午後「会場展示作業」／　1.22(火)午後「会場撤去作業」
　　＜花輪・十和田高校の美術部員の皆さんに応援していただき、大変助かった。
　　観覧者数が増えるように各校、地元新聞で宣伝していただいた。＞
　　※会期が例年より１日少なく残念であったが多数の方に観覧していただいた。
　　昨年に引き続き，高校の部で独自に審査会を行った。
・　2.15(金)　第２回役員会（花輪市民センター）
　　＜今年度会計報告・次年度事業計画・今年度事業のまとめについて＞

大館・北秋田造形教育研究会

1．会員数　53名

2．組　織

	氏　　名	学　　校　　名　　(職)
会　　長	澤　田　眞理子	川口小学校校長
副　会　長	佐々木　久　隆	阿仁合小学校校長
	黒　澤　正　尚	上川沿小学校校長
	永　井　孝　久	桂城小学校教頭
	高　橋　　智	釈迦内小学校教頭
事務局長	嘉　藤　貴　子	鷹巣南中学校教諭
県研究部員	工　藤　明　美	大館東中学校教諭
事業部長	三　澤　正　敏	雪沢小学校教諭　＊絵を見て語る会
	藤　嶋　聖　人	上川沿小学校教諭　＊実技研修会
	五代儀　　基	大阿仁小学校教諭　＊北の造形

3．平成19年度の主な事業

4月16日（月）	大館北秋田総会 ・昨年度の会務報告・決算承認し，今年度の事業計画と予算・新役員承認，会員名簿の作成をする。	鷹巣中学校
7月 6日（金）	能代山本造形研夏季研修会に参加（対話型鑑賞）	上岩川小学校
7月26日（木） 27日（金）	東北造形研　青森大会参加	
8月 6日（月） 9･10日（木･金）	実技研修会:曲げわっぱ作り　～16名の参加 講師　伝統工芸士　佐々木悌治さん	上川沿小学校
8月 7日（火）	第42回造形セミナーへの参加	高清水小学校
11月30日（金）	平成19年度秋田県児童生徒美術展地区審査会 素描集「北の造形」第40集　審査会　～28名	田代公民館
1月 4日（金） 1月10日（木）	秋田県児童生徒美術展作品搬入　～5名 秋田県児童生徒美術展作品搬出　～4名	秋田市文化会館
1月17日（木）	第30回　絵を見て語る会 ・59名の参加は，昨年より10名以上多く，盛会となった。 ・分科会では，幼保・低学年・中学年・高学年・中学校の5分科会にわかれて，県の入賞作品を中心に「どのような指導が行われたか」などの研修を行った。昨年より話題作と推賞作品数が多く，指導のポイントなど熱心に話し合われた。また，分科会の作品だけでなく，全体を自由に鑑賞する時間も設定し，幼・保，小・中の連携の場としている。 素描集「北の造形」第40集発刊・配布	田代公民館
2月 7日（木）	理事会 ・今年度の活動の評価・反省と，次年度の方向づけ。 ・来年度の役員の推薦など。 ・平成20年度全県大会について。	鷹巣南中学校
※　平成20年度全県大会に向けて授業研究会を行った。		

能代・山本造形教育研究会

1．会員数　30名

2．組　織

・会　長	佐々木　彰　子（上岩川小学校）	
・副会長	田　中　範　子（浄城南小学校）	長　浜　笑　子（八竜中学校）
・会計監査	岩　谷　修　一（能代東中学校）	木　村　加奈子（常盤小学校）
・事務局	芹　田　　亨（常盤中学校）	
・理　事	田　森　　舞（能代南中学校）	畠　山　真知子（向能代小学校）
	榮　田　裕　子（浄城西小学校）	石　塚　博　子（東雲中学校）
	渡　部　悦　子（能代第二中学校）	大　髙　絵里奈（二ツ井中学校）
	石　川　昌　子（二ツ井小学校）	岡　　真千子（湖北小学校）

3．平成19年度の主な事業

○　7月6日　夏季研修会（対話型鑑賞授業の研究）

授業者　鎌　田　　悟　　中央教育事務所指導主事

助言者　木　村　　伸　　北教育事務所指導主事

田　村　　稔　　県総合教育センター指導主事

鑑賞授業の一つの手立てとして、対話型の鑑賞がある。今回は、昨年国立近代美術館で開催された「対話型鑑賞」の研修会に参加された、鎌田指導主事の授業を参観し、研究協議会が行われた。現在の美術教育の在り方を考えると、貴重な会であるため、今回は、能代山本地区だけでなく、大館北秋地区にも参加を呼びかけ、県北地区の研究会になった。会の中では、参加者による対話型鑑賞も行われ、鑑賞の楽しさや難しさについて考えさせられ、これからの鑑賞授業の指針となった。

○　10月3日　研究授業　能代第一中学校　田森　舞　教諭

「仏像の鑑賞」（鑑賞）

授業では、鑑賞会場を別に設定し、様々な仏像の写真や資料を、数多く鑑賞した。会場では香をたくなど、雰囲気づくりに工夫が見られた。生徒にとって、仏像をじっくり鑑賞する機会がほとんどないため、鑑賞の学習に取り組みやすくさせるため、「お気に入りの仏像を見つけよう」という導入に始まり、そこから仏像の美しさや、形の意味の理解へと発展させ、日本の伝統美を味わうという内容であった。参観者も再発見することもあり、参考になる研究授業であった。

○　12月13日　第48回秋田県児童生徒美術展郡市審査会（平面の部）会場：能代山本広域交流センター

児童生徒作品の参加校は、小学校33校、中学校10校。出品数は、447点で、参加校は昨年度と変わらないが、出品数が減少した。また、審査会は部会員の研修の場となっており、これからもたくさんの部会員の参加に期待したい。

○　1月10日　秋田県児童生徒美術展入賞作品を見て語る会　会場：能代山本広域交流センター

入賞作品を見て、技法や指導の実際について情報交換や、今後の指導の在り方について意見交換が行われた。県児童生徒美術展の評価基準と照らし合わせ、今後の美術教育の在り方について考えさせられる会となった。

男鹿市造形教育研究会

1．会員数　10名

2．組　織　・会　長　　新　田　清　志（男鹿東中）
　　・副会長　　船　木　鈴　子（北　陽　中）
　　・委　員　　高　橋　良　子（払　戸　小）　　太　田　三千代（脇本第一小）
　　・幹　事　　秋　本　謙　逸（男鹿東中）

3．平成１９年度の主な事業

(1)　4月11日(水)　研修部総会
(2)　4月25日(水)　第１回運営委員会
(3)　9月12日(水)　第２回運営委員会
(4)　10月17日(水)　教科部会研修
(5)　11月21日(水)　男鹿市児童生徒美術展（搬入・展示）
　　秋田県児童生徒美術展作品審査会(平面の部)
(6)　11月21日(水)～11月28日(水)　男鹿市児童生徒美術展
(7)　11月28日(水)　男鹿市児童生徒美術展（撤去・搬出）
(8)　12月12日(水)　秋田県児童生徒美術展作品審査会(立体の部)

4．成果と課題

○　造形部会教科研修

今年度は男鹿東中学校を会場にして行われた。内容は対話型鑑賞を用いた授業の実践である。始めに実践ビデオを使い問題提起をした後、中央教育事務所鎌田悟指導主事による講話を聞き、模擬授業を体験した。また、造形部員がグループに分かれ、授業づくりも行うことができた。短い時間での研修であったが、鑑賞に対する意識を高めることができたと思う。対話型の鑑賞は美術を専門としているいないを問わず、取り組みやすい鑑賞方法である。今後の授業実践の中でぜひ生かしたいと思う。このような機会を与えてくれた鎌田悟指導主事に感謝したい。

○　秋田県児童生徒美術展男鹿市作品審査会

今年度は男鹿市内すべての小・中学校から出品があった。出品作品数は小学校111点、中学校56点であり、この中から小学校37点、中学校19点の入賞作品を選出した。また、さらに秋田県審査会で入賞作品の中から話題賞が２点、推奨作品が３点選出された。どの学年も力作ぞろいで、地域性を生かした作品が多かった。

○　男鹿市児童生徒美術展

今年度は会場を男鹿市船川のハートピアギャラリーからジョイフルシティ船越店に移して実施した。百貨店を会場にして作品展を行うことは賛否が分かれるところであるが、昨年に比べ多くの方々に鑑賞していただくことができた。反省点は、事前の広報活動が不十分であったため作品展の開催を知らない保護者の方もいたことである。この点を来年度は改善し、より多くの方々にこどもたちの素晴らしい作品を観てもらえるようにしたいと思う。

潟上・南秋造形教育研究会

1．会員数　19名

2．組　織　会　　長　播　摩　優　子（八　郎　潟　小）
　　副 会 長　築　瀬　智　美（出　　戸　　小）
　　佐　藤　廣　子（羽　　城　　中）
　　運営委員　伊　藤　　晃（大　　潟　　小）
　　小　林　　理（大　久　保　小）
　　都　留　賀津人（天　　王　　中）
　　近　江　和佳子（五城目第一中）
　　事 務 局　中　川　　努（天　王　南　中）

3．平成19年度の主な事業

(1)　研究主題　　よろこび・わくわく　新たな発見　～キラリ感じてつくる子ども～

(2)　活動の概要

①　4月18日(水)　総会(羽城中)

②　5月28日(月)　第1回運営委員会(八郎潟小)

③　8月 2日(木)　夏休み造形教室

◆会場　五城目町野鳥の森

◆講師　自然観察員　鎌田和子氏
　　造形部員　10名

◆内容　木の実，木の枝などを使ったオブジェの制作

◆対象　郡市内の小・中学生（午前25名，午後29名）

◆成果　・参加者には事前にアイディアを考えさせておいたので，スムーズに取り組めた。
　　・各自で用意した材料も使わせることで，作品への愛着が強まった。

◆課題　・午前･午後とも参加者が保護者や幼児も含めて30名を超えてしまい，手狭になってしまった。対象学年4年生以上を強調する必要あり。

④　9月13日(木)　教科等研究会

◆会場　秋田公立美術工芸短期大学附属高等学院

◆講師　同校教諭　鎌田俊弘氏

◆内容　・施設見学と金属工芸実習

◆成果　・純銀を使ったペンダントとリングづくりを行なった。現場ではあまり扱うことのない素材と技法を体験することができて有意義な研修となった。

◆課題　・終了時間になっても完成できず，実技内容に見合う時間の配慮が足りなかった。

⑤　11月29日(木)　第2回運営委員会(八郎潟小)

⑥　12月13日(木)　子どもの作品を語る会

◆会場　潟上市昭和公民館

◆内容　・県児童生徒美術展平面･立体の部の作品審査
　　・審査しながらの子どもの作品の見方研修

◆成果　・例年よりも規模を拡大して実施したが，参加者の協力により，審査や作業を手際よく行なうことができた。
　　・平面作品の入賞率を下げ，また立体作品の審査を行なったことで，展示作品の質の向上が図られた。

◆課題　・立体作品の出品数が少なくなってきた。
　　・立体作品の技術的指導や取り扱う素材などについての研修をさらに深める必要性を感じた。

秋田市造形教育研究会

1．会員数　56名

2．組　織　・会　長　近　藤　久　隆（四ツ小屋小）
　　・副会長　高　橋　　等（旭　南　小）
　　羽　深　　進（仁井田小）
　　佐　藤　一　彦（河　辺　中）
　　・事務局　小　松　文　子（飯　島　小）　中　村　公　俊（泉　　中）
　　小　林　さおり（秋田東中）　村　山　祥　子（日　新　小）
　　・会　計　松　田　由紀子（外旭川小）

3．事業および研修

(1)　鑑賞研修会（5月30日　千秋美術館）

秋田市立千秋美術館で「丸沼芸術の森所蔵ベン・シャーン展～線に宿る魂」を学芸員の方からの解説を受け，鑑賞した。造形会員や会員以外の参加者と，反戦などのメッセージや，弱者への優しさなどベン・シャーンの思いを心に刻むことができた。魂のこもった多様な線に魅せられた。

(2)　大森山動物園写生大会（7月30日　大森山動物園と共催行事）

子供たちが，保護者と共に生きている動物の姿を描く貴重な写生会である。この大会へ25名の会員が出向き，指導助言，審査に当たった。天候にも恵まれ，親子の語らいの中で，動物たちを生き生きと熱心に描く子供たちが多く見られた。今年度から立体表現への挑戦をすべく4月から準備をし，10余名の子どもたちが芝生の上で10kgの土粘土を用い，立体的に動物の姿をとらえた。新しい試みとして，今後の写生会の運営に一石を投じるものとなった。

(3)　実践発表会（11月7日　秋田市教育研究所）

秋田南中学校の藤田かおる先生から「観察による表現の授業」の実践を紹介していただいた。中学校1年生が友達を描く題材である。鑑賞から表現へ，さらに表現を経て鑑賞へ。水彩絵の具の重色，不透明水彩など技法への取組みも話題となった。24名の先生の活発な協議のもと，ものの見方やとらえ方，小学校との連携などが話題になった。

(4)　秋田県児童生徒美術展秋田市審査（12月1日　秋田市立高清水小学校）

「平面の部」と「立体の部」を同時に，土曜日，公開審査を行った。より質の高い作品を見出すため，厳選して審査を行った。入賞に満たない作品には，残念ながら指導の弱さが見られた。子どもへの題材の投げかけ方，子どもたちの思いを実現する教師の見取り，ふさわしい構成力，表現技法など，教師の力量が作品に表れることを指摘された。厳しい言葉も聞かれる審査風景であった。

(5)　クロッキー巡回展（審査12月28日　旭川小学校）

会員30名で審査し，冬季休業明けからの巡回展の準備を整えた。図工の時間に生まれた46校の児童のクロッキーを丁寧に見て，コメントも書き添えた。

(6)　実践発表会（2月6日　秋田市教育研究所）

3名の小学校の先生から日常の実践を紹介していただいた。共通して小学校低学年の版画が，話題となった。学年ごとに指導内容を落とさず，段階的に指導していくことの大切さを痛感するものとなった。中学校の先生から小学校での体験の不足を指摘された。絵の具やパレット，筆，カッターナイフや版画用具などの使い方，構成する力，美的感覚の鋭さなどは，小・中の9年という長いスパンで培われるものである。私たちの日々の指導の積み重ねが，子どもたちの体験，手仕事を確かなものとし，感覚を磨き，感性を豊かにしていく。指導者として，たゆまぬ努力を積み重ねようと，心に誓った一時であった。

本荘由利造形教育研究会

1．会員数　29名

2．組　織

・部　　長	恩田哲典	（道川小）
・副部長	三船文夫	（矢島小）
	柴田　薫	（八塩小）
・会計監査	三保知子	（上郷小）
・運営委員	大野一紀	（本荘東）
	大平涼子	（院内小）
	大友めぐみ	（直根小）
・会　　計	高木真紀	（西目小）
・研究部	菊地邦彦	（鳥海中）
・研究委員	関口琢也	（尾崎小）
	赤川祐輝	（本荘東中）
	大平涼子	（院内小）
・事務局	安保　純	（象潟中）

3．平成19年度の主な事業

(1)　造形部授業研究会（10月24日）

西目中学校を会場に授業提示並びに研究協議会を行った。授業示は西目中学校教諭　の赤川祐輝先生で、題材は２年生の「見て楽しい　さわって楽しい　こだわりの形～寄せ木のオブジェ～」であった。指導者に造形教育研究会部長の恩田哲典先生にお願いし、充実した話し合いがなされた。協議会を通して，題材について，基礎基本について，求める子供の姿など，今後研修を深めていかなければならないことを再確認することができた。

(2)　児童生徒美術展（11月22日～26日）

本荘文化会館地階会議室で開催した。テーマ「描くこと・つくることが大好き」を反映した個性豊かな作品が多く見られた。昨年同様，立体作品の充実には目を見張るものがあった。
本年度も昨年度に引き続き，出品作品の中から造形部がめざす作品を何点か選び，「奨励作品」として紹介した。各部員の熱心な取り組みと各校の協力で，運営面・作品の内容共により充実した展覧会となった。

(3)　造形部研修会(12月10日)

本荘文化会館地階会議室にて県児童生徒美術展平面の部、本荘由利公開審査会として行った。金曜日は各小中学校会議が多いために、本年度より月曜日の実施とした。すると、審査への参加者が増え、各校の協力によりスムーズに審査を進めることができた。
造形部員にとっては，児童・生徒の平面作品について話し合う有意義な研修の場となり，今後の授業に役立つ情報を得ることができた。

(4)　機関紙「マホガニー」の発行

来年度の総会時に発行予定。内容は平成１９年度の造形部員による実践研究や指導案，部員一覧などの予定である。

4．成果と課題

平成16年度の秋田県造形教育研究大会本荘由利大会において、造形部の組織を運営部・研究部と改編した。研究部の組織も３年目に入り、要請訪問・計画訪問などの研究授業に研究部員も参加し、相互の研修を深めることがスムーズにできた。児童生徒美術展においては奨励作品選出の際に日頃の造形教育の疑問・意見などの情報交換が活発に行われ有益だった。

今後も造形部員一人一人が図工・美術の授業改善に積極的に取り組んでいかなければならないと考える。来年度も，事務局・研究部を中心にして本荘由利児童生徒美術展、研修会などに取り組んでいきたい。

大曲・仙北造形教育研究会

1．会員数　43名

2．組　織　・会　長　小　原　　靖（南外西小学校）
・副会長　高　橋　克　明（藤木小学校）　小　林　高太郎（角館中学校）
・監　事　藤　田　美保子（六郷中学校）　今　井　弘　子（大曲南中学校）
鈴　木　紀　子（金沢小学校）
・幹　事　佐　川　由紀子（生保内小学校）　渡　邉　真理子（角館中学校）
石　山　瑞　穂（清水小学校）　菅　原　　靖（中仙小学校）
・事務局　高　橋　　涼（大曲中学校）

3．平成19年度主な事業

(1)　4月19日（木）　平成19年度総会（会場：大仙市交流センター）
・18年度会務報告、決算承認　19年度事業計画と予算承認、新役員選定
・東北大会総括

(2)　7月26日（木）・27日（金）
第52回　東北造形研究大会　青森大会
兼　平成19年度　青森県造形教育研究大会　青森大会参
・12名の会員が参加した。昨年度の取り組みの成果を確認し、今後の研究の視点を明確化する上で有意義な研修になった。

(3)　11月22日（木）第39回大曲仙北児童生徒美術展　審査・展示
・平面、立体合わせて1184点の出品があり、大変活気ある審査会となった。また、今年度は立体作品の審査もあり、例年と比べ、深い研修ができたと思う。各校の作品を参考に新たな授業の展開、素材の可能性に触れることができた。

(4)　大曲仙北造形教育研究会会報「さるびあ」発行
・今年度の歩みや昨年度のふり返りをまとめることができた。

4．成果と課題

昨年度、東北造形研究大会という大きな大会を経験し、今年度からの活動をどのように組み立てていくか、というのが今年度の課題となった。そのため、夏におこなわれた東北造形研究大会　青森大会に参加し、本会の研究、そして取り組みはどうであったのかを検証することにした。一昨年度の鶴岡大会にも参加してきたのだが今年度の青森大会に参加し、改めて本会が取り組んだ研究、方向性は間違っていなかったという認識に結びつき、手応えを感じた。来年度は大曲仙北造形教育研究大会仙南大会が行われる。研修、研究を通して学んできたものをさらによい形にして子ども達に還元できればと考えている。

横手市造形教育研究会

1．会員数　23名

2．組　織　・会　　長　石　川　喜美子（南　　小）
　　・副会長　奥　　秀　輝（川西小）　　伊　藤　美枝子（平鹿中）
　　・監　　事　草　彌　　昇（十文字中）　　高　瀬　康　子（横手南小）
　　・研究部長　佐　藤　　稔（雄物川中）
　　・事務局　吉　沢　　理（山内中）

3．平成19年度の主な事業

(1)　造形イベント「つくって遊ぼう」

（9月23日）

毎年行われている横手市子ども会育成連合会主催の造形イベントである。朝倉館を会場に他団体と合同で実施した。ジュニアリーダー会員の手伝いもいただきながら、歓声と笑顔の中で活動が行われた。小学生を中心とした参加者は、時間を忘れて造形活動を楽しんでいた。

(2)　横手市児童生徒美術展

（11月22日～26日）

今回で33回目となる作品展であるが、増田ふれあいプラザを会場に800点ほどの作品が出品された。子どもたちが楽しく作る姿が目に浮かぶような作品が多数出品された。

(3)　第48回秋田県児童生徒美術展地区審査

（11月26日）

小学校６校・中学校５校から作品が寄せられ、例年並みの出品数を確保できた。市の美術展の搬出日に審査をしたため、造形会員のいない小学校からも出品があった。「改めて審査日を設定するよりも出品しやすい。」という声もあるので、来年度以降も質の高い作品を多数出品してもらいたいものである。

(4)　造形会員誌「よこての造形第40号」の発行

昨年度よりＣＤ－Ｒでの配布とした「よこての造形」であるが、印刷物よりも写真がはっきりしているため、どんな作品づくりが進められたかがよくわかるようになった。各校の造形活動の参考になることを願っている。

湯沢・雄勝造形教育研究会

1．会員数　40名

2．組　織　・会　長　　芦　原　清　巳（明 治 小）
　　・副会長　　佐　藤　義　昭（中 山 小）　　加　藤　久　夫（湯沢北中）
　　・理　事　　高　山　真理子（湯沢南中）
　　・幹　事　　佐　藤　かよ子（羽 後 中）
　　・事務局　　鈴　木　　陽（仙 道 小）　　長　雄　義　明（雄 勝 中）
　　佐　藤　智　美（湯沢西小）

3．平成19年度の主な事業

(1)　湯沢雄勝小・中学校教育研究会運営協議会一斉研究会　造形教育研究会

・期　　日　　平成19年９月11日（火）
・会　　場　　湯沢市立三関小学校、湯沢市立湯沢南中学校
・研究授業　　「ふしぎなたまご　ぱかっ」三関小学校　　井上　晴子　教諭
　　「水墨画に挑戦」　　湯沢南中学校　高山真理子　教諭

門脇伸子指導主事をお招きして、「感　～光・風・色・形～」という研究テーマのもと、授業研究会を開催した。参観者は39名だった。三関小で小学校の授業参観をした後、湯沢南中に移動して中学校の授業参観、および全体の研究協議を行った。

小学校ではたくさんのたまごパックを使って思い思いに表現する造形遊び、中学校では水墨画の模写を通して作品の主題を感じ取るという授業が提示された。

(2)　秋田県児童生徒美術展湯沢雄勝地方展（第48回秋田県児童生徒美術展地区審査）

・期　　日　　平成19年12月１日（土）～４日（火）
・会　　場　　湯沢雄勝広域交流センター
・出 品 校　　小学校26校　中学校11校

多目的ホールを会場に、秋田県児童生徒美術展の審査を行い、「平面の部」では小学校で92点、中学校で26点、計118点の入賞作品を選出した。また、今年度から「立体の部」も地方で審査をおこなうこととなり、小学校で４点、中学校で14点、計18点の入賞作品を選出した。

地方展では「平面の部」で424点「立体の部」で50点の作品を展示した。

作者の思いをどんな表現方法を生かしながら作品化していくかという視点で作品を見つめることができた。各校の入賞作品を見ながら、具体的に教科実践の工夫を指摘し合うことができた。

(3)　湯沢雄勝造形教育研究会会誌『このゆびとまれ』vol.７発行

今年度の研究会、会員のあゆみをまとめた。よりよい会誌の発行を目指し、昨年度に引き続いてカラー原稿で冊子を編集することができた。

第48回　秋田県児童生徒美術展

期　間：平成20年１月５日（土）～９日（水）８日は休館日
会　場：秋田市文化会館
　　４日間とも開館時間帯は、９：30～16：00

○主　　催　　秋田県教育研究会造形部会
　　秋田県造形教育研究会

○後　　援　　秋田県教育委員会　　秋田市教育委員会
　　秋田魁新報社　　ＮＨＫ秋田放送局
　　ＡＢＳ秋田放送　　ＡＫＴ秋田テレビ
　　ＡＡＢ秋田朝日放送

応募数	**平面の部**			
	出品総数	4,294点	入賞数	1,217点
	推　　賞	170点	話題作数	38点
	立体の部			
			入賞数	640点
	推　　賞	60点	話題作数	18点
入場者数	3,601人			

平成19年度　第48回秋田県児童生徒美術展（平成20年１月５日～９日）

話題作一覧

（魁掲載）作品　～平面の部～

学年	題　　名	学校(園)名	氏　　名	郡　　市
幼保	ある夜　ぼくのみた夢	金足西幼稚園	おの　ひろむ	秋田市
	はやいなぁ！	上宮第一幼稚園	むらかみゆうと	横手市
小１	うちゅうであそびたいな	広面小学校	せき　こうせい	秋田市
	でかくろうし	東成瀬小学校	高橋　怜登	湯沢雄勝
	ふしぎなぼうけん	直根小学校	いけ田　たかと	本荘由利
	空の上のかぶこうえん	能代市立第四小学校	ささ木　ちひろ	能代山本
小２	虫となかよし（公園にて）	大阿仁小学校	松橋　和	大館北秋
	おちばとわたし	北陽小学校	佐々木　美帆	男鹿
	ピアニカじょうずにふけるかな？	中山小学校	菅原　和樹	湯沢雄勝
	嵐のたんけんたい	桜小学校	なついしゅうと	秋田市
小３	不思議な木	秋田大学附属小学校	藤井　彩夏	秋田市
	一りん車、めざせ500m！	合川北小学校	杉渕　冬佳	大館北秋
	きみとぼくと　そして海	北陽小学校	柴田　昌春	男鹿
	おどれ　かみつけ　ししがらし	直根小学校	藤山　和大	本荘由利
小４	市立体育館	八橋小学校	山田　菜々	秋田市
	リコーダーを吹く知誉君	桂城小学校	安部　克星	大館北秋
	にげる魚　追いかける鳥	花輪小学校	成田　匡希	鹿角
	鳥があつまる木	直根小学校	池田　圭佑	本荘由利
小５	私が住んでいる街	勝平小学校	髙橋　沙也香	秋田市
	ブラックホール	東成瀬小学校	鈴木　麻美	湯沢雄勝
	高清水を見つめて～護国神社	高清水小学校	住吉　泉	秋田市
	野生のさけび	米内沢小学校	庄司　正彦	大館北秋
小６	波のりジョニー	東小学校	石川　裕斗	秋田市
	ランドセル	湯沢西小学校	鈴木　彩綾	湯沢雄勝
	自然豊かな風景	浜田小学校	塚田　汐里	秋田市
	窓の向こう側の世界	前田小学校	金沢　脩人	大館北秋
中１	スケッチしよう	土崎中学校	堀川　ななみ	秋田市
	秋に染まる	御所野学院中学校	伊藤　晴香	秋田市
	考え中	桜中学校	松本　彩花	秋田市
	これからのぼく	鷹巣中学校	千葉　駿介	大館北秋
中２	One for all All for one	仙北中学校	相馬　莉奈	大曲仙北
	ココロの旋律	六郷中学校	戸澤　真澄	大曲仙北
	世界の箱	矢立中学校	佐藤　希望	大館北秋
	廊下の窓から	土崎中学校	三上　亮平	秋田市
中３	中庭	湯沢北中学校	矢野　梓	湯沢雄勝
	I Love…	十和田中学校	石川　舞	鹿角
	未来人間の感情	桜中学校	京　さおり	秋田市
	機械的な私	土崎中学校	本城　満知子	秋田市

平面の部／話題になった作品

幼稚園・保育園

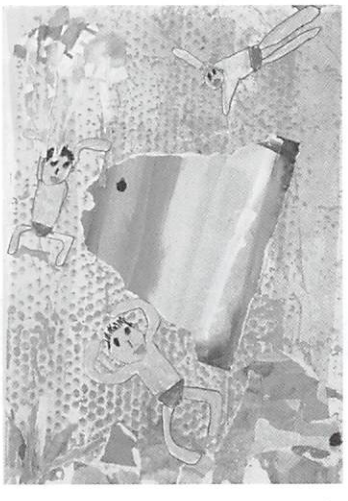
ある夜　ぼくのみた夢
金足西幼稚園　おの　ひろむ

はやいなぁ
上宮第一幼稚園　むらかみ　ゆうと

うちゅうであそびたいな
広面小学校　せき　こうせい

小学校作品

でかくろうし
東成瀬小学校　髙　橋　怜　登



ふしぎなぼうけん
直根小学校　いけ田　たかと

空の上のかぶこうえん
能代市立第四小学校　ささ木　ちひろ

虫となかよし（公園にて）
大阿仁小学校　松　橋　　和

おちばとわたし
北陽小学校　佐々木　美　帆

ピアニカじょうずにふけるかな？
中山小学校　菅　原　和　樹

嵐のたんけんたい
桜小学校　なつい　しゅうと

不思議な木
秋田大学附属小学校　藤　井　彩　夏

一りん車、めざせ500m！
合川北小学校　杉　渕　冬　佳

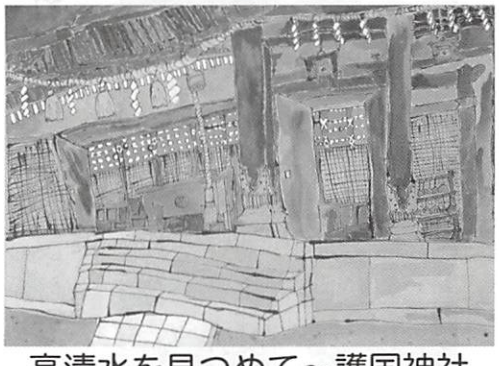
きみとぼくと　そして海
北陽小学校　柴　田　昌　春

おどれ　かみつけ　ししがらし
直根小学校　藤　山　和　大

市立体育館
八橋小学校　山　田　菜　々

にげる魚　追いかける鳥
花輪小学校　成　田　匡　希

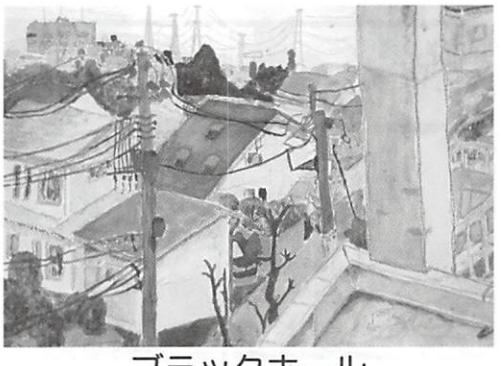
私が住んでいる街
勝平小学校　髙　橋　沙也香



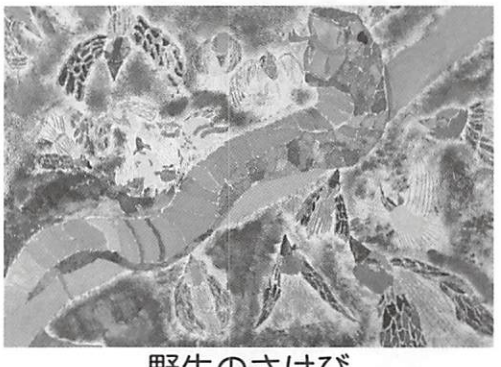
高清水を見つめて～護国神社
高清水小学校　住　吉　　泉

リコーダーを吹く知誉君
桂城小学校　安　部　克　星

鳥があつまる木
直根小学校　池　田　圭　佑



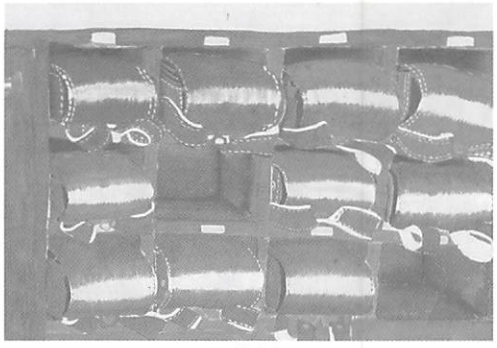
ブラックホール
東成瀬小学校　鈴　木　麻　美



野生のさけび
米内沢小学校　庄　司　正　彦

波のりジョニー
東小学校　石　川　裕　斗

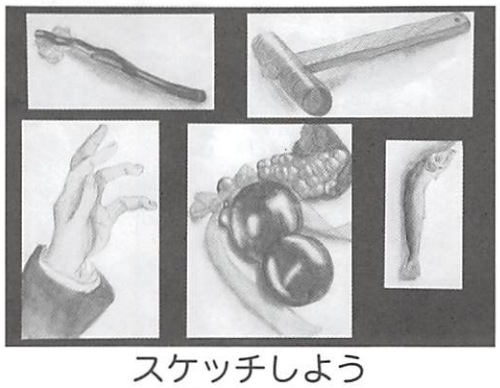
自然豊かな風景
浜田小学校　塚　田　汐　里



ランドセル
湯沢西小学校　鈴　木　彩　綾

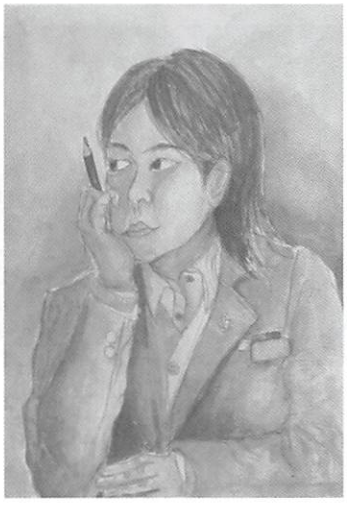
窓の向こう側の世界
前田小学校　金　沢　脩　人

中学校作品

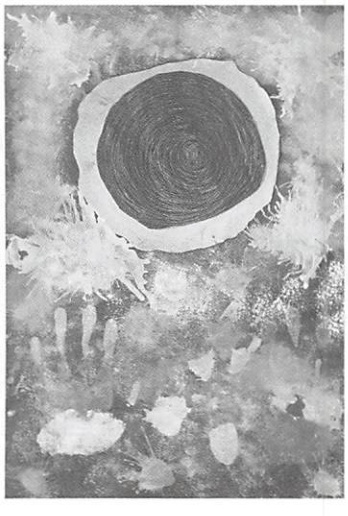


スケッチしよう
土崎中学校　堀　川　ななみ

秋に染まる
御所野学院中学校　伊　藤　晴　香

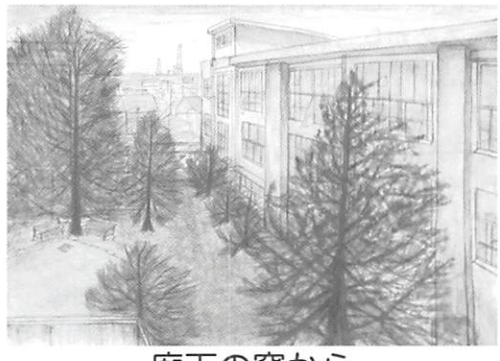


考え中
桜中学校　松　本　彩　花



これからのぼく
鷹巣中学校　千　葉　駿　介

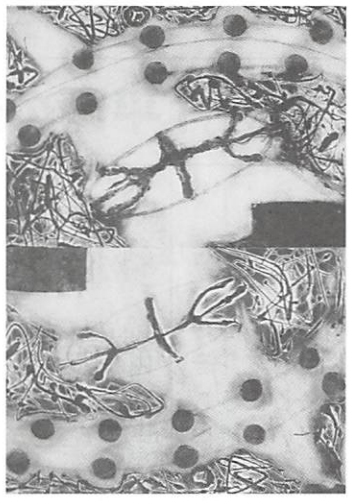
ココロの旋律
六郷中学校　戸　澤　真　澄



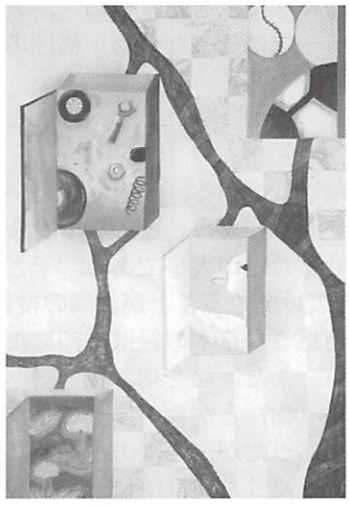
廊下の窓から
土崎中学校　三　上　亮　平

I Love…
十和田中学校　石　川　舞

機械的な私
土崎中学校　本　城　満知子

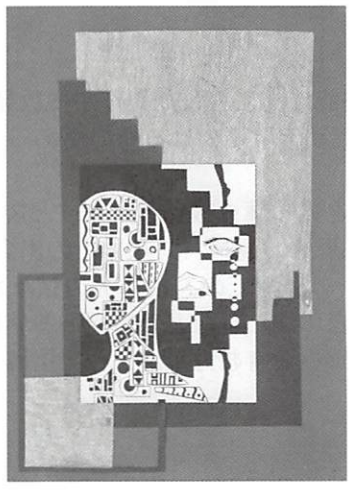


One for all All for one
仙北中学校　相　馬　莉　奈



世界の箱
矢立中学校　佐　藤　希　望

中庭
湯沢北中学校　矢　野　梓



未来人間の感情
桜中学校　京　さおり

第48回　秋田県児童生徒美術展　総評「平面の部」

【幼・保・小学校低学年】

園児たちの作品からは，指導者の方々が確かな教材研究のもとに，入念な準備をして取り組んでいるのが感じられた。

指導者が，子どもたちの心に寄り添い，表現の一つ一つに深くかかわり合いながら作品づくりをしている様子が見られた。課題としては，指導者が，画用紙のスペースを意識しすぎて，その中に納めようとする思いが先行するあまり，子どもの思いや想像力の自由なはばたきをせばめてしまうことに自戒すべきだろう。小学校低学年は，色づかいが澄んでいてカラフルな作品が多い。自分の思いを直接表現することから一歩進めて，発想や構想を重ね，子どもたちの伸び伸びとした表現が引き出されていた。子どもたちの思いを具現化するために，こすり出し，ローラー，重ね塗り，スタンピングなど様々な技法を組み合わせ，表現能力を高めている姿が見られた。テーマ性をもって，描きたい思いを高め，テーマにそった色彩・構図の工夫に好感が持てた。

【小学校中学年】

人物，風景，物語，版画等，それぞれの表現に様々な子どもの思いが溢れている。子どもの思いを大切にするということは，ただ子どもの好きなように表現させることではないように思う。どのジャンルであっても，始めにテーマを明確にして子どもにしっかりとたイメージをもたせることが大事である。子どもの思いに寄り添いながら，表現方法や材料，構図等，子どもの持つイメージを広げてやることが教師の役目である。風景画の場合，中学年では混色による描画指導をもっと深めてほしいと思う。草木の緑は季節によって様々な緑があることに気付かせたり，水は青という概念なども改めさせたい。また，絵を切り抜いて貼る技法においては，切り抜かれた絵は馴染みにくい。背景とコラージュする人物（物）とが食い違ってしまわないような，細部にこだわった表現が求められよう。クロッキー作品も何点かあったが，表現力があるだけに，クロッキーに終わらず，彩色し対象とじっくり向き合った完成度の高い作品として取り組ませてほしかった。また，版画では，フォルムのとらえ方がしっかりできていても，彫りの指導が不十分で残念に思える作品が多く見られた。子どもは指導することによって着実に伸びる，ということを改めて感じさせられた作品展であった。

【小学校高学年】

小学校高学年の作品では，時間をかけ丁寧に仕上げたものが多く見られた。全体として感覚的・装飾的な作品が増えているように感じた。高学年になると表現の中に作者自身の生き方や生活の裏付けを感じさせるようなたくましさが表れてくる。今回の作品にも，自分の表現したい思いと深く向き合い，はっきりとしたねらいをもって制作したと思われる作品が多く見られた。

特に目をひいた作品として，『私が住んでいる街』（勝平小・５年・高橋沙也香さん）は、明るい色づかいと細やかな筆遣いで家並みが描かれ，作者の生活に対する深い愛着が感じられる作品となっている。また，『ランドセル』（湯沢西小・６年・鈴木彩綾さん）は，ロッカーに入っているランドセルの赤とそこに当たる光の反射に作者のこだわりを感じさせられる。あいたロッカーの暗さとランドセルの赤のコントラストも何気ない学校生活の中にある小さなドラマを感じさせて面白い。

【中学校】

作者の思いが十分に込められ，豊かな発想，構想と確かな表現の技能に支えられた秀作が多数見られた。反面，技法や素材のハウ・ツー（ｈｏｗ－ｔｏ）化が進み、オリジナリティに欠けるものもあった。プラス・アルファーの創意・工夫を期待したい。

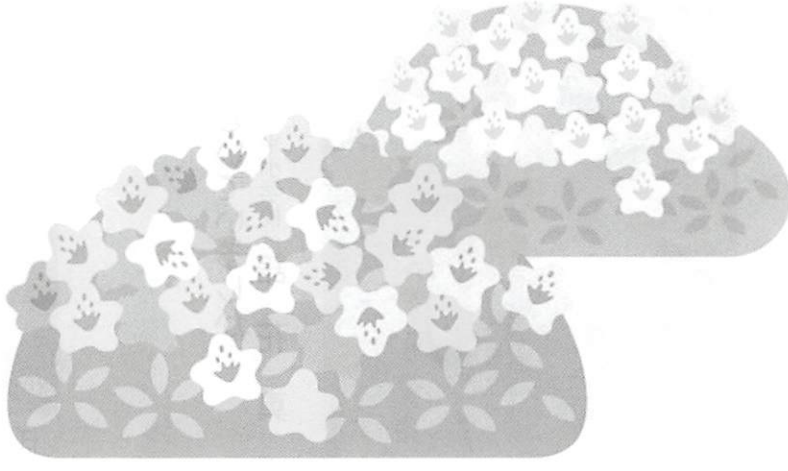
作品制作の根源は「テーマ」である。作者の心の叫びや，キラキラと光り輝く感動が，もっとストレートに画面からあふれ出るような，そんな作品を，もっともっと見たいと思う。題材（対象）との出会いから，思いをふくらませ，表現技法を選択し，自己表現に没頭する･･･。その過程での，指導者の様々な「しかけ＝支援」の充実を願っている。子どもたちが、身近な自然や物、人との関わりなどから，あるいは文化や歴史，伝統や国土から何かを感じとることのできるような，柔らかな感性を育む力量が，今，指導者に求められている。

平成19年度　第48回秋田県児童生徒美術展（平成20年１月５日～９日）

話題作一覧

（魁掲載）作品　～立体の部～

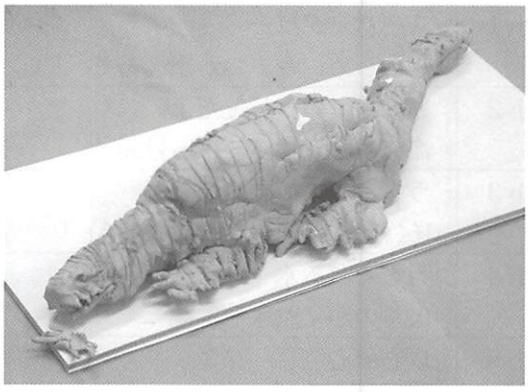
学年	題　　名	学　校　名	氏　　名	郡　　市
小１	スーパータワー	日新小学校	かしわぎけいご	秋　田　市
	しめしめ、今、つかまえるぞ	上郷小学校	こんどうこうすけ	本 荘 由 利
小２	いつも　いっしょだよ	平沢小学校	飴　屋　翔　太	本 荘 由 利
	海の中でクマノミはっけん	旭南小学校	森づか　歩　み	秋　田　市
小３	うしろをむいているしか	勝平小学校	舘　花　真　珠	秋　田　市
	ぼくのお城はきらきらげき城（じょう）！	尾崎小学校	嵯　峨　京　介	本 荘 由 利
小４	力をくれる水	土崎小学校	佐　藤　　匠	秋　田　市
	ぼくのかくれ家	釈迦内小学校	千　葉　雄　登	大 館 北 秋
小５	以心伝心	秋田大学附属小学校	久　島　凱　亜	秋　田　市
	雪　光る	土崎南小学校	田　村　優　季	秋　田　市
小６	宇宙の時空機動（タイムマシーン）	北内越小学校	齊　藤　　匡	本 荘 由 利
	ワンダフル・ホーン	浜田小学校	石　黒　　剛	秋　田　市
中１	愉快な空間	仁賀保中学校	鈴　木　信　吾	本 荘 由 利
	ヒュー	合川中学校	吉　田　はるか	大 館 北 秋
中２	木もれ日	金沢中学校	斉　藤　正　典	横　　手
	ハエに優しいハエトリグサ	矢島中学校	村　上　風　子	由 利 本 荘
中３	Tea Time	千畑中学校	３年　共同制作	大 曲 仙 北
	心の中	土崎中学校	本　城　満知子	秋　　田



立体の部／話題になった作品

小学校作品

スーパータワー
日新小学校　かしわぎ　けいご

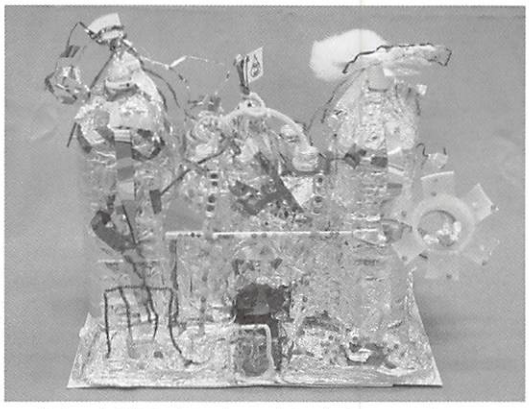


しめしめ、今、つかまえるぞ
上郷小学校　こんどう　こうすけ

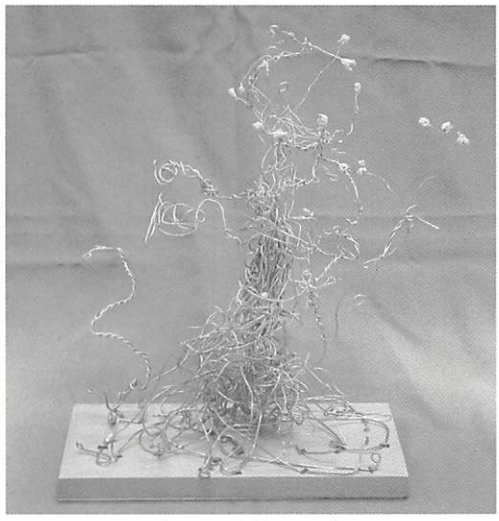
いつも　いっしょだよ
平沢小学校　飴　屋　翔　太

海の中でクマノミはっけん
旭南小学校　森づか　歩み

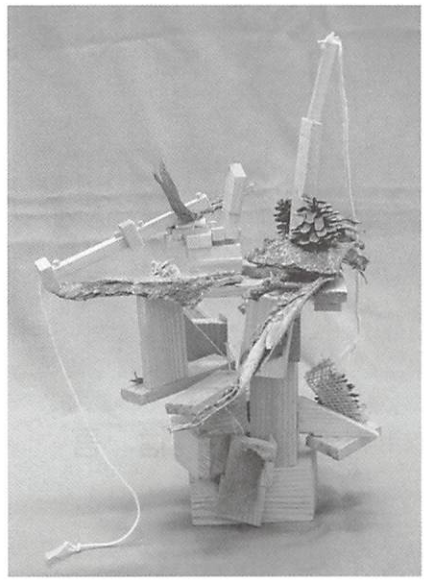
うしろをむいているしか
勝平小学校　舘　花　真　珠



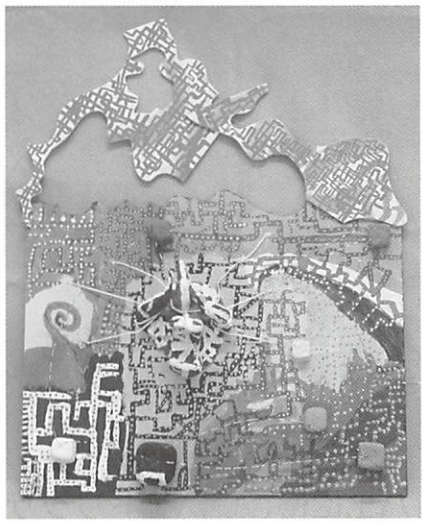
ぼくのお城はきらきらげき城（じょう）！
尾崎小学校　嵯　峨　京　介



力をくれる水
土崎小学校　佐　藤　　匠



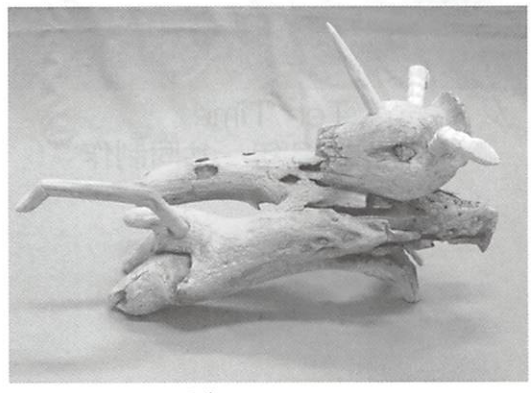
ぼくのかくれ家
釈迦内中学校　千　葉　雄　登



以心伝心
秋田大学附属小学校　久　島　凱　亜

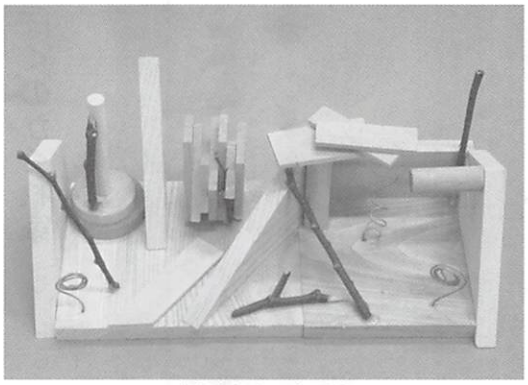
雪　光る
土崎南小学校　田　村　優　季

宇宙の時空機動（タイムマシーン）
北内越小学校　齊　藤　　匡



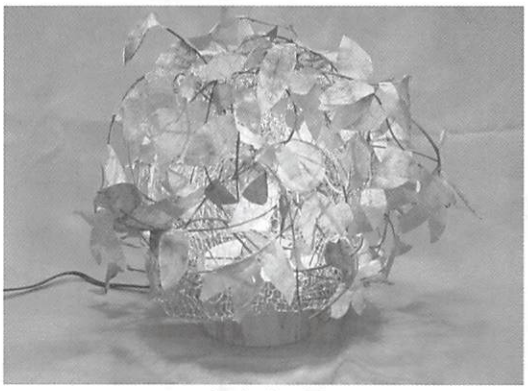
ワンダフル・ホーン
浜田小学校　石　黒　　剛

中学校作品



愉快な空間
仁賀保中学校　鈴　木　信　吾

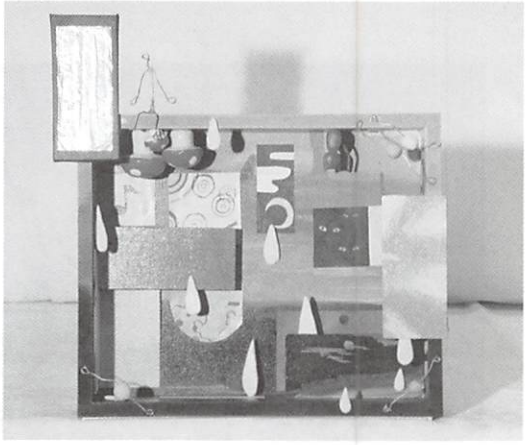
ヒュー
合川中学校　吉　田　はるか



木もれ日
金沢中学校　斉　藤　正　典

ハエに優しいハエトリグサ
矢島中学校　村　上　風　子

Ter Time
千畑中学校　3年　共同制作



心の中
土崎中学校　本　城　満知子

第48回　秋田県児童生徒美術展　総評「立体の部」

【小学校低学年】

小学校低学年の立体の作品を見て感じたことは，実に多種多様な素材を身の回りから見つけ，それを自分の作品づくりに生かしているということ。お菓子の箱やペットボトル，紙コップ，卵のケース,洗濯ばさみ…などなど，使われている素材を数えるときりがない程だった。それらの素材を自分の作品のどこにどのように使おうかと楽しみながら，時には試行錯誤しながら造形活動に取り組んでいる子どもたちの顔が浮かんでくるようだった。また、粘土によるシンプルな素材を使った作品の中にも，子どもたちの思いが大変よく伝わってくる作品があった。粘土の種類による質感を生かし，色や模様などを工夫しながら生き生きとした作品に仕上げていた。

話題作の中で，上郷小１年生のこんどうこうすけ君の粘土による作品『しめしめ，今，つかまえるぞ』は，恐竜が今にも獲物を捕まえる瞬間が大変よく捉えられてる。旭南小２年生森づか歩みさんの作品『海の中でクマノミはっけん』は、身の回りの素材を効果的に使って，実に楽しそうな海の中の様子を表現しているのが印象に残った。。

【小学校中学年】

流木など自然材のもつ曲線，針金やアルミなど人工材のもつ無機的な感じなど，素材の形や材質から発想を広げ，その特徴を生かして伸び伸びとつくっている作品が目についた。また，色紙・毛糸・モール・金属箔など，材料によるそれぞれの色の違いや組み合わせを生かしたカラフルなものも多く，色彩に対する子どもの感性の輝きが見られた。木の実やペットボトルなどの身近材も巧みに使われているなど，日頃から身の回りのものによく目を向けてそれを表現に生かそうとする態度づくりのなされていることがうかがわれる。

毛糸の巻き付け方やひもの絡め方・結び方、細部のつくりや扱いに細やかな工夫が見られ，つくった子どもの思いが伝わってくるようだ。ただ、接着に関して不十分なものがあり、教師側が見届ける目や丁寧な指導の必要を感じた。

今回は、比較的新素材の使用が少ないことが寂しく思えた。新しい素材の可能性を探り、子どもの発想をさらに広げる新しい表現に挑戦してほしい。

【小学校高学年】

流木などの自然材や身辺材をうまく使って表現している。また、キット材から発想を大きく広げて表現を楽しんでいるものもあった。（これは，昨年，キットものの問題点として取り上げられた「制限されやすい」というあたりをクリアしている点である。）

高学年としての作品に対するこだわりやテーマへの深い思いを感じさせる作品が多く見られた。形や色や思いを，それぞれの材料の特性をよく生かしながら，空間の表現を楽しんでいるものが多い。今後の課題としては，ひらめきはひらめきで生かしながら，もっとじっくりテーマに向き合えるような時間も与えてあげたい。また，展示する際の作品をのせる台などにも工夫すると，作品が一層輝いて見えただろうと思える作品も数点見られた。

『以心伝心』（秋大附小・５年・久島凱亜さん）は，色や形，パーツの大きさなど細部にこだわり，自分の世界を表現していた。『宇宙の時空機動』（北内越小・６年・齊藤匡さん）は，作品は小さめだが思いがたくさん詰まっており，空想を形にして楽しんでいる。

【中学校】

作品には，指導者の題材観が表れる。近年，似たような題材が多かった中で，発達段階を考慮し，的確な学力観を持って指導している作品には魅力的な作品が見られた。例えば，同じ題材でも学年によって素材やねらいを変えて指導しているものや，新しい題材開発に意欲的に取り組んでいるもの，技法を丁寧に指導しながらも，そこに選択肢を設定して幅のある題材にしているもの等である。

学年別の傾向を見ると，１年生は小学校での学習内容を生かしながら表現し，２・３年生は，テーマに対して自分なりの考えをしっかりもって，構成段階を大切にしながら表現していた。特に３年生は，心象表現に取り組んでいる作品が多く見られ，自分を見つめ直すような表現が多かったように思える。

美術の授業時数が減って久しいが，全体的には限られた時間の中で指導者が生徒一人一人の思いを大切にして指導している様子が作品から見て取れた。

第42回秋田県造形教育セミナー

「変化」を促す「出会い」を求めて

平成19年８月７日(火)、秋田市立高清水小学校を会場に、第42回秋田県造形教育セミナーが開催されました。当日は酷暑の中、約100名ほどの先生方が元気に参加されました。開会にあたって、近藤久隆会長から、「今現在の秋田県の児童生徒作品には力が感じられない。対象に真摯に向き合おうとする意志が感じられず、表現が薄っぺらである。この、洞察力の不足は、生きる力の不足にも結びついているだろう。」といった課題が投げかけられました。しかし一方で、「私たち教師が、子どもの表現の中に、たくましさを見つけていたか。へたくそで不器用でも、力強く生命力のある作品を求めていくよう、その意識を変える一歩となれば・・・。」といった力強い言葉が発せられ、本会は幕を開けました。

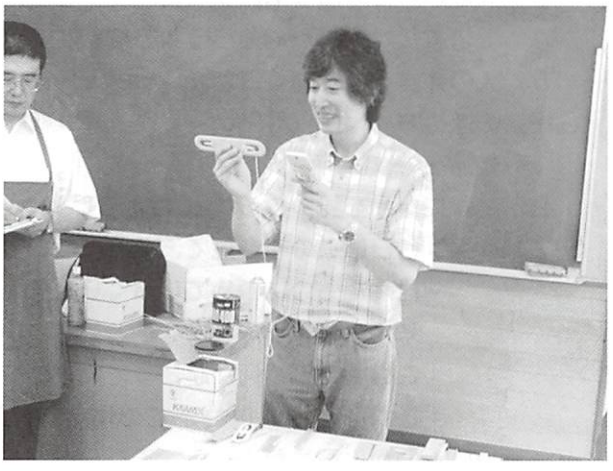
■ 日　程

受付	開会行事	移動・休憩	鑑賞授業の提示と検証 「これって何？」 ～対話を通した鑑賞の試み～	昼食・休憩	大曲・仙北大会報告	大館・北秋大会紹介	移動・休憩	コース別研修 A：【木材工芸】 秋田大学教育文化学部教授 専門：芸術教育科学・木材工芸 遠藤　敏明　先生	閉会行事
			【授業１・２，協議】 授業者：中央教育事務所 指導主事　鎌田　悟　先生					B：【秋田県の陶芸史】 秋田県立博物館主任専門員 庄内　昭男　先生 ※15：30で終了となります。	
			【授業３・４，協議】 授業者：総合教育センター 指導主事　田村　稔　先生					C：【ステンシルローラー版画】 株式会社クラフテリオ講師 押山　二男　先生	

9：45　10:00　10:25　10:30　　12:30　13:30　13:45　14:00　14:10　　16:10　16:30

午前中は、中央教育事務所指導主事の鎌田悟先生と総合教育センター指導主事の田村稔先生より、対話型鑑賞授業の提示がありました。参加者全員が、児童・生徒役を経験し、両先生方の温かく包み込むような話し方に、終始リラックスした雰囲気で自由に発言していました。その後の全体協議会でも、「教師の姿勢や子どもへの語り掛け方などが参考になった。」「どのような絵を選ぶべきか。」などの感想や質問などが出され、興味の高さが伺えました。

その後、昨年度大曲・仙北地区で開催された東北大会並びに秋田県大会の大会報告、来年度大館・北秋地区で開催予定の秋田県大会の研究経緯の報告が発表されました。昨年度大会報告では、「いのち輝き夢遊ぶとき～思い豊かで楽しくてたまらない造形活動を求めて～」のテーマのもと「材料」及び「学び合い」をキーワードに進めてきた研究実践について、アンケートをまとめたものを中心に報告されました。特に成果としては、子どもの思いを高める教師の支援の素晴らしさや、思いがふくらむ題材の工夫などが挙げられ、大会の充実ぶりが伺えました。来年度大会に向けての研究報告では、「わくわく どきどきひろがる思い」～ふるさとと共に育て！豊かな感性～というテーマのとらえを、わくわく（授業）・どきどき（地域）・ひろがる（子どもの思い）とし、造形活動において育てたい力と絡めながら説明されました。また、講演が予定される中村政人氏は、秋田県出身で現在東京藝術大学准教授であるとともに、アーチストとしてもさまざまに活動されている方で、今からとても楽しみになりました。



また、午後はコース別研修として、「木材工芸」「秋田県の陶芸史」「ステンシルローラー版画」に分かれ、それぞれの講師の先生から指導を受けながら有意義な時間を過ごしました。より専門的なお話しを分かりやすく話していただいたり、授業で実践できるアイデアを教えていただいたりしながらの楽しくて実りある研修でした。紙面をお借りして、講師の先生方には改めて御礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

鑑賞授業の提示と検証
「これって何？」～対話を通した鑑賞の試み～

鑑賞授業Ａ【授業３・４】

講　師　田　村　　稔　先生
（総合教育センター指導主事）

鑑賞授業Ａ では、総合教育センターの指導主事である田村先生を講師に迎え、【対話型鑑賞】の授業を提示・検証していただいた。セミナー参加の造形会員が生徒役、田村先生が教師役となり授業が行われた。

「みなさん、今から目を閉じて、子どもになってください。」

という語りかけで、生徒役の造形会員・小中学校の先生たちは静かに目を閉じ、その後、授業が展開された。以下に、【対話型鑑賞】の授業の進め方の一例を紹介する。

《対話型鑑賞のススメ》

○授業前の準備

1　教師がじっくり作品を鑑賞しておく。そして子どもの反応を予想しておく。

2　教師は子どもの顔が見える位置に立つ（座る）。

○ルール

1　静かにじっくりと作品を見ること。

2　言いたいことがあれば静かに手を挙げて順番に待つこと。

3　大きい声でみんなに話すこと。

4　できるだけ分かってもらうように話すこと。

5　人の発言をよく聞くこと。

○授業の進め方

1　作品を映す。

2　静かに作品を見つめる（30秒くらい）

「今日はこの絵を見て、それについて話し合います。しばらく静かに見てみましょう。見えたものについてじっくりと考えられるように、心に浮かんだこと全てについて考えましょう。どんなことでもいいのです。」

「この絵の中で何が起こっているのでしょう？」

「これはどう？」「さあこの作品で考えてみよう？」「どんなふうに見えたかな？」

→　・いくつかの意見が出たら、それらをいったんまとめる。

・意見を深めるために、説明を必要としたり、議論に新しい流れが生まれたときには？

「どこを見てそう思ったの？」「どうしてそう思ったの？」

→　・より盛り上げるために

「他に言いたいことはない？」「どうしてそう思ったの？」「それはどういう意味？」

「誰か付け加えたいことは？」「○○や□□ということかな？」

→　・いろいろな意見が出たら要約する。もしくは子どもに要約させる。

「いろんな意見があったけれどまとめてみると？」

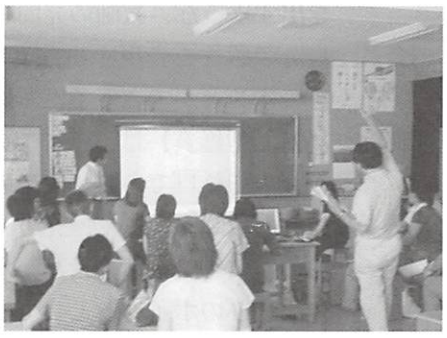
生徒役となり授業を受けた造形会員からは、予想以上に様々な意見が出た。みな、本当に子どもになったように、無邪気な笑顔で絵に対する自分の考えを発表していた。本研修は、普段授業をする側の我々造形会員が、生徒の気持ちになることができる、非常に貴重な体験であった。今後、会員一人一人が現場で、この体験を生かして【対話型鑑賞】の授業を実践していくことが大切である。

授業　B

鑑賞授業の提示と検証
「これって何？」～対話を通した鑑賞の試み～

授業者　鎌　田　　悟　先生
（中央教育事務所　指導主事）

今回は参加者を半分に分け、半数が生徒役として授業に参加し、残りはそれを参観するという形で鑑賞授業の提示が行われた。



約束①静かに、じっくり作品を見る。
②言いたいことがあれば静かに手を挙げて順番を待つ。
③大きな声で話す。
④なるべく人にわかってもらえるように話す。
⑤人の発言をよく聞く。

作品がスクリーンに投影され、30秒くらい黙って絵を見た後**「この絵を見て、何が見えますか」**という問いかけがあり、１人ずつ意見を発表していった。

・地平線。草刈りをしている人。車の通った轍。
・道路と電信柱。その向こうは草原なのか空なのか…。空に生き物が浮いているようにも見える。
・自分は海だと思った。
・だまし絵か、なにか巨大な絵の一部分なのかもしれない。
・麦畑（または草原）で３人の少年が追いかけっこをしていると思った。３人の心象が気になる。

など、人によって様々な捉え方があったが、その中から**「描かれている風景の季節・時間はいつごろか」**に焦点を当ててさらに対話が進められた。

・色調から、夕暮れだと感じた。
・人物や電信柱の影が伸びていないことから、真昼ではないか。
・秋の日の、午後３時くらい。
・朝・昼・夜が混在している不思議な世界。

それぞれの様々な解釈に、参加者は興味深く耳を傾けていた。

「対話型鑑賞」では問いかけはシンプルな方がよい。特に「何が見えますか」はとにかく見えるものを答えればよいので意見が出やすい。その他「どんな感じがしますか」「何が起こっていますか」も有効。いろいろな答えが出てきたら焦点化して掘り下げていく（色・時間・作者の考えetc…）とよいとのこと。

最後に、今回鑑賞した絵は牛島憲之作の『青田』で、97歳で亡くなった画家の94歳の時の作品であることが紹介された。作品のテーマがわかったことや作者が思いの外高齢であったことで参加者からは感嘆の声が上がったが、鎌田先生からは、あえて“答え”（作者像・題名・解説等）を言う必要はないというお話があった。「“答え探し”の時間にはしたくない。自分が感じたことや、他人の意見を聞いて変容していく自分に気づくことを大切にしてほしい」とのことであった。

後半の授業では、最初に作者や題名（牛島憲之『赤坂見附』1940年）が紹介された後**「どんな風景でしょうか」**という問いかけで対話がスタートした。

・白いなあ、という印象。真夏の、いろいろなものが光って見える、そんな季節なのだろうか。
・八の字に広がって描かれているピンク色は何だろうか。花？
・作者の立っている位置（視点）がはっきりしない。上から見下ろしているようにも坂の下から見上げているようにも見える。
・遠くの景色が霞んでいる。何があるのだろうか。

そのあと、前半の授業でも鑑賞した『青田』を、今度は最初に題名や作者の経歴などを紹介したうえで用い、**「どんな風景でしょうか」「時間や季節はどうでしょうか」「どこから見ているんだろう」**といった視点から鑑賞していった。

後半の鑑賞は積極的に作品背景を解説しながら行われた。発問も前半の授業の「何が見えますか」よりも一段階難しくするなど、いろいろな切り口や授業展開が可能であることを示唆していただいた。

終始和やかな雰囲気の中、たくさんの個性的な発言に彩られた楽しい授業であった。同じ絵を見ていながら注目する部分やその捉え方感じ方が１人１人違うことに驚き、そして自分と異なる意見を聞くことで自分の見方や考え方が広がり変容していくのを感じることができた。

今回の研修は「鑑賞」に苦手意識をもっている教師にとっても「鑑賞の授業も面白いな」「実践してみようかな」という意欲がもてるものであった。鎌田先生に大きな感謝の意を表したい。

全体会・協議

鑑賞授業の実践Ａ・Ｂを、全員が《生徒役》《見学者役》の異なる立場で参加し、その後、体育館で全体会・協議が行われた。以下に、協議で出された会員の意見や講師の先生からの指導助言を紹介する。

1　【対話型鑑賞】の授業を受けての感想・意見、授業のポイントの紹介

会員　子どもたちが自分の意見を言いやすい場の設定、授業の雰囲気作りが大切。一人一人の考えを引き出すような、教師の発問のテクニックもポイント。

会員　自分の感性を表現する言葉を持たない子どもでも、人の意見から言葉を学び、自分の思いや意見を表すことができる子どもになっていくのではないか？

講師　【対話型鑑賞】は、今までの鑑賞教育の延長上にあるものではなく、全く違った側面からの鑑賞教育の切り口である。授業の中で答え合わせをせずに、絵の見方を学んでいく鑑賞である。
知識を教師が出して、見方・感じ方の方向性を示してはいけない。
この授業では教師の役割がポイントとなる。
作品選びのポイントとしては、抽象的な平面作品が子どもたちの多様な意見を出しやすい。

2　様々な鑑賞授業の実践紹介。

会員　「和菓子」を鑑賞のモチーフとした授業の実践。和菓子のデザインを鑑賞し、本物を食べてみてお茶を飲み、そのお菓子の名前を考えてみて発表する。

会員　幼い頃の体験を生かしての絵本作りと鑑賞の授業。

会員　名画模写の授業。知識の注入ではなく、自ら見ることを学んでいく制作過程と鑑賞。

会員　生徒を美術館に連れていく出張鑑賞授業。教師も生徒もまず、本物を肌で感じ、「見る」ことが大切。

3　学校現場の現状と課題

講師　表現のための鑑賞が多いのではないだろうか？独立した鑑賞は実践されているか？

講師　教師の知識がネックとなっていて、鑑賞の授業がスムーズにできないのではないだろうか？
本日の提示された【対話型鑑賞】の授業をそのままやるのではなく、自分なりの授業を作ることが大切である。

4　成果と課題（参加者から）

会員　鑑賞授業においても、つい生徒指導的な考えで授業を進めてしまう傾向がある。生徒の意見や思いを引き出すよりも、教師側が刺激を与える授業になってしまいがちである。

会員　作品の提示の難しさを感じる。生徒に本物の作品を見せることも大切であるし、教師自身も本物をたくさん見ることが大切ではないかと感じる。本日の授業で、鑑賞の奥の深さを感じた。

会員　作品にどっぷりと浸らせる授業を作ってみたい。

上記のように、造形会員からは、自分自身の現場での体験を交えた様々な意見が出された。それぞれの学校現場に１～２名しかいない我々造形会員にとって、本セミナーは貴重な意見交換、及び情報収集の機会である。他校の実践紹介や指導主事によるアドバイスは、我々教師が生徒たちに教え続けていくためのエネルギーとなる。今回の【対話型鑑賞】授業の生徒役での体験は、これからの授業づくりに、大きく役立つものとなる。生徒の「目線」「視点」に立つことにより、教師側の発問の仕方は大きく変わる。ともすると美術教師は、自分自身が持っている豊富な知識に頼り、「知識を教える」授業になってしまうおそれがある。本セミナーでの経験をエネルギーとして、より魅力ある授業を作っていきたいものである。

実技研修　A

「木材工芸」

講師　遠　藤　敏　明　先生
（秋田大学教育文化学部教授）

木材工芸コースでは、遠藤敏明先生を講師に迎え、織物に使う綜鉱（そうこう）及び杼（ひ）と木のしおりを制作した。

1．遠藤先生の自己紹介と今日のテーマについての説明

遠藤先生から、スウェーデン風木工のことを「スロイド」といい、スウェーデンでは義務教育の教科名となっていることや、先生がスウェーデンに留学した学部名も「スロイド・インステチュート」（英語では“Departmento of Craft and Desigh”）と呼んでいたことなどの話を通して自己紹介があり、「美術は人生そのもの、生活＝美術でありたいと願っている」という印象的な言葉をいただいた。

また、「授業や生活にすぐに活用できる、薄く・軽く加工する木材工芸」が今日のテーマとして提示された。

2．実技①「綜鉱（そうこう）及び杼（ひ）の制作とその活用」

⑴　スウェーデンでの実例

遠藤先生が実際にスウェーデンを訪れていた際、小学生が運動靴のひもを自作していた実例や、専門雑誌のひもを織るための道具つくりと織物の実際の記事が紹介された。

例①　「スロイド・フォーラム」誌（1984年）※小中学生向け美術冊子
②　「ヘムスロイド」誌（2007年）※最新流行のアームバンドとして
※スウェーデン語がたいへん印象的であった
織物＝バンドグリンダム
綜鉱＝バンドグリンド
杼＝ガルンスティッカ

⑵　作り方

材料；ブナ

①　杼（ひ）の制作
型紙作り→木に転写→ドリルで穴→糸ノコ→紙ヤスリ・小刀

②　綜鉱（そうこう）の制作
６本の横木にドリルで穴→板材を組み合わせて横木を接着

③　織り
綜鉱を上下させて杼を通して織り上げていく

3．実技②「木のしおり制作」

薄い材料としての木の性質を考えるのに、よい題材。
厚さ0.5mmの板材を糸ノコでくりぬいていく。
また、日常なかなか使うことのない裏技的な技法を教えていただいた。
①　糸ノコの刃をヤスリで落としておくと、切り口が毛羽たない。
②　板をテープで重ねて一度に何枚も作って友人と交換したりできる。

ブナ、ナラ、青森ヒバ、カバ、ウォールナット、（本物の）天然秋田スギなど、さまざまな種類の木材を提供していただいた。においや手触り、木目の美しさなど木の種類による違いを確認できた。

おわりに

最後に、遠藤先生から、「これまで、何度か教職員向けに研修を行ったが、『ふだんの授業ではやりづらい』と言われてしまうことがたいへん残念であった。現在は、自動カンナや帯ノコ盤も比較的安価で安全に使えるものが市販されているので、ぜひそういう工具を学校備品に加えて今日行った実技研究を実践してほしい」というお話があった。先生の助言をいかし、小中学校を問わず、ぜひ、実際の授業でやっていきたいものである。

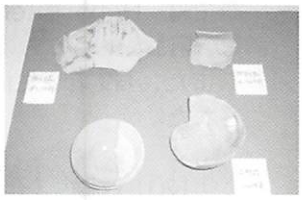
遠藤先生には、多種多様な木材や適切な道具の準備など、事前準備にたいへん手間をかけていただいた。そのおかげで、短時間であるにもかかわらず、作業もはかどり、充実した研修となった。

実技研修　B

「秋田県の陶芸史」

講師　庄　内　昭　男　先生
（秋田県立博物館主任専門員）

秋田県の陶芸を，陶器の作品や陶片，窯跡等の様々な写真と実物で解説していただいた。
千年にも及ぶ陶芸史を概観するには講義の時間が短く，なかなか大変だったのではと推察するが，大まかな流れと各時代の特徴的な部分をかいつまんだ説明で，県内の陶芸史の概要をつかむことができた。
楢岡焼などについての話もあり，日常身近で使い，目にしている陶器でありながら，意外に知らない製作や製造の背景などを聞き，興味をもつとともに改めて見直す機会となった。
講義は，大きく五つの時代に分けて，それぞれについて説明があった。内容は以下の通りである。



1　土器の移り変わり　～縄文・弥生～

○　陶器は，土器として１万年前に出現した。機能としては煮炊き用から盛り付け用へ，加工としては器の内側を磨くことから外側を磨くことへと変化していく。
○　縄文土器の変遷を見ると，早期・前期は鉢形を主体としているが，中期には盛り付け用の浅い鉢，後期には壺や注ぎ口のある器が出現する。赤（ベンガラ）を使った彩色が現れるのもこの時期である。晩期には煮炊きに使われる粗製土器と文様で装飾された精製土器に分かれてくる。
○　弥生土器では，大きな壺や高坏なども作られている。

2　硬い須恵器を使用する　～古代～

○　轆轤（ろくろ）で作られ，土器よりも堅い須恵器が焼かれるようになるが，これはやきものを支える条件（燃料の木，適した粘土）が整ってきたことを示している。
○　住居の中に竈（かまど）が築かれるようになり，この変化に伴い，甕（かめ）だけでなく，これと組み合わせて物を蒸すための甑（こしき）なども作られ，様々な種類の土師器が使用されている。

3　陶器が現れて　～中世～

○　秋田市飯島穀丁からの出土品には，中国の青磁や瀬戸の花瓶等があり，15世紀頃には交易で陶器がもたらされていたことが分かる。
○　旧南外村の窯跡からは，陶製の五輪塔が見付かった。同じような陶製の五輪塔は能登半島でも製作されており，寺院の管轄下にあったと想定される陶器生産や陶工が，信仰の普及に結びついて能登から秋田へ移動してきたと考えられる。
○　中世陶器の出土に，すり鉢が多い。堅いやきものの性質を生かして食物をすりつぶす以外に，教典を入れる容器として埋納された例もある。すり鉢のおろすための櫛目が底面に平行なものや垂直なものがあり，働きや形が定着するのに時間が掛かったと推測される。出土したものは，目が無くなっているものもあり，かなり使用された様子がうかがわれる。

4　さまざまな陶器・磁器が現れて　～近世～

○　平成２年の寺内焼の窯跡発掘で生産の様子が，平成13～17年の久保田城下の発掘で消費の様子が分かってきた。出土品には肥前系陶磁器が多く，陶器から磁器へ変化する移入の様子が分かる。
○　秋田で主に生産されたものには，生活の中で頻繁に使われたものと，藩の関係や武士の趣味などを反映したものがある。
○　生活で使われたもので，秋田で特徴的なのは，すり鉢，焜炉（こんろ），土鍋と土瓶である。特に焜炉はホタテの貝殻を鍋代わりに載せて（秋田で言う「かやき」として），武士から庶民まで広く使用されたことが分かる。
○　磁器製造は藩がリードして行われ，寺内焼では佐竹家の裏御紋がある磁器片が出ている。当時，飼うのに許可が必要だった野鳥の餌入れのように，武士の好みに合わせて作られたものもある。

5　磁器の使用が広がる　～近代・現代～

○　江戸時代後半から明治期にかけて，美濃や瀬戸の磁器などの移入が増えた。赤絵・金彩などの多彩な技法と，銅板転写による大量生産の絵柄が見られる。特に奥羽鉄道開通後は，多量の移入が起こる。
○　県外からの安価な製品の大量移入で，小規模な県内の陶磁器生産は行き詰まる。しかし，殖産興業などの産業と関連して，地場産業用の製造により，白岩焼や寺内焼（屋根瓦）は引き続き生産され，酒造・染物に使う大甕製造の楢岡焼，土管製造の深井焼など，様々な取り組みの多様化により県内のやきものの生産が維持された。

先生ご自身は考古学が専門で，美術の先生方に話をするのは初めて，ということで少し緊張されていたようだが，最後には趣味の骨董市巡りの話まで出て，なごやかな雰囲気であった。奇をてらうことなく，平易で朴訥な語り口からは，研究一筋に歩んでこられた誠実な人柄までうかがわれた。著書に「秋田やきもの好」（カッパンプラン歴史文庫）があるので，興味のある方は参考にされるとよいかもしれない。いずれも県内の焼き物であり，気軽に実物を確かめに出かけることもできるだろう。

実技研修　C

「ステンシルローラー版画の制作技法」

講師　押　山　二　男　先生
株式会社クラフテリオ　講師

実技研修Cでは，株式会社クラフテリオの押山二男先生を講師に迎え，ローラーの様々な活用法やそれらを応用したステンシルローラー版画について教えていただいた。豊富な材料や工夫された道具を用意していただき，普段身近なローラーでおもしろい模様づくりが簡単にできることに驚き，楽しく集中して模様づくりに取り組むことができた。また，それらを応用したステンシルローラー版画は，作品から受ける印象よりも簡単に作品を作ることができ，参加した方々も集中して工夫した作品づくりに挑戦していた。

ローラーの活用法について

・　オリジナルローラーの使用

ローラーにあった大きさの紙筒に，おうとつができる物をはる。
(綿ロープ・たこ糸・麻ひも・エアーマット・木の皮・こん包材など)
ローラーに紙筒をかぶせてオリジナルローラーを作る。

・　ローラーで水玉模様

紙に直接，インキを割りばしなどで数色置く。
置いたインクの色と違う色のインキをローラーにつける。
インキを置いたところを出発点として，ローラーを転がしていく。

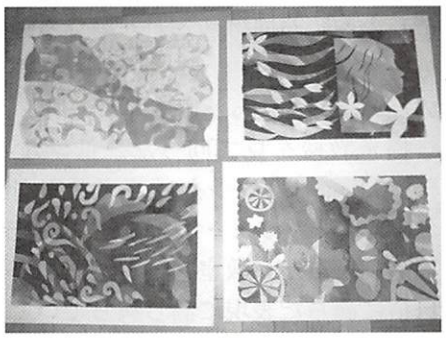
・　ローラーに形をうつす

ダンボール・くしゃくしゃにした紙・おもちゃ・ひもなどのうえに，インキをつけたローラーを転がす。
そのローラーを紙に転がす。

葉っぱを紙の上に茎を向こう側にして置く。
インキをつけたローラーで転がす。
白ぬきの模様ができる。
そのまま葉っぱを取って転がすと，濃淡が反転した模様ができる。

色を付けた葉っぱを紙に置いて，インキを付けたローラーを転がすと二色の模様ができる。

ステンシルローラー版画について



明るい色で紙にローラー遊びをする。
乾いたインキの上に，はってはがせるシールを様々な形に切ってはる。
その上から違う色のインキでローラー遊びをする。
インキが乾いたらシールをはり，作業を繰り返す。
最後にシールの上から最も濃い色（紺色や黒）をつける。（白でもよい）
インキが乾いたら，シールをはがす。

impressions of AOMORI

東北造形教育研究大会青森大会／2007年７月26日・27日：青森市

秋田県造形教育研究会会長　近藤　久隆

“きらめく感性ゆたかな創造”の大会テーマと“青い森からのメッセージ”のサブテーマは、青森造形会員の内に秘めた自負と自信を感じさせて清々しい。第52回東北造形教育研究大会青森大会、その日の青森は数日後にひかえた「ねぶた祭り」の鳴動を大地に閉じこめたまま照り付ける夏の日差しの中にあった。

大会第１日目の全体会は青森グランドホテルを会場にして、そのメインに聖徳大学教授の遠藤友麗先生の講演を準備していた。講演は期待にたがわず、先生の多くの現場経験から得た子どもへの対応のノウハウを分かりやすく伝えるものであり、日常の造形指導を自省する格好の機会となった。だが、演題に掲げた「これからの図画工作・美術で重視すべきこと」の“造形教育の明日”といった視点からみるといささかの不満の残る内容に思えた。

大会２日目、私は小校長部会の会場校である「莨（たばこ）小校長」に向かった。保健教育の中にも喫煙の害が取り沙汰されるご時世にあって「莨」とはとの思いにかられ、校名の由来を学校長である子鹿哲朗氏を尋ねてみた。彼はその訳を、江戸時代、藩から（唯一？）煙草の栽培を許された地域の誇りがこの町名の由来であり、この地区のアイデンティティにもなっていると満面の笑顔で話してくれた。ここにも青森らしい時流に流されないこだわりが感じられ楽しく聞いた。

校内には子どもたちの作った木版画作品（共同製作）が幾枚も展示され、この学校の版画教育への情熱がうかがえる。廊下の長い通路にそって子どもたち一人一人が作り吊るしたのであろう「金魚ねぶた」が開け放たれた熱い夏風に涼しく揺れていた。「ねぶた」と「版画」、青森の揺るぐことのない姿勢を映した環境経営である。

提示教授を見て回った。低学年は、造形遊び『うつしてペッタンたばこまち印刷工場』の題材名で、ステンシル・ローラー版画を中心にした表現活動だった。教室内は、子どもたち一人一人の自信に満ちた表現に満ち満ちていている。行うことによって自らの学びの深化・発展させている子どもの姿がここにあった。こうした表現の大胆さが版画の下絵づくりをも支えているのだろう。廊下に掲示してあった描線の見事な絵画作品の存在にも合点がいくというものだ。

中学年は、『わくわくどきどきビッグ版バーガー』と、いささかおやじ的駄洒落の気になる題材名ではあったが、子どもの手慣れた「刷り」の技術に驚かれさた。版はシナベニア全判大の共同制作である。３年生ということで、木版の彫りだけでなく２年生で学習した「紙版画」の技法をも使っての「木版・紙版併用版画」が行われていた。後で聞いた話だが、四年生になったらすべて木版画になるが、そのための橋渡し的な意味をもった版画表現なのだと言う。なるほど、筋が通っている。

高学年は、『広がれ！版画ワールド』と題して、本時は自分たちでつくった版画作品の鑑賞学習の時間であった。作品の制作には、青森の版画作家である橋本尚恣氏を外部指導者に招いて、子どもたちにプロの作品づくりを体験させていた。版は薄いアルミ板を使ってのドライポイントで、どちらかと言えば抽象的な表現である。高学年らしい木版画表現を期待していた私ではあったが、版画表現の広がりと進化いった視点からみれば、これもまた納得がいく指導内容と言えよう。橋本氏はこの日も指導者の一人として授業に参加しており、その授業の終わりに子どもたちに向かって語った言葉が印象に残った。「鑑賞とは自分と対話すること、作品を創造した作者と対話すること、そして作品を見る鑑賞者と対話することなんだよ。」と。この作家の人間性の確かさを感じさせて、私の心に爽やかな余韻が残した。また、この授業の後に行われた研究協議の場で、担任教師が語った一言も印象深い。彼はこう言った。「私が橋本先生を選んだのは、この先生なら私の大事な子どもたちの前に立たせても大丈夫だと感じたからです」と。外部教師を選択する上で基本的な視点である。たとえ優れた技術や豊富な知識をもっていたにせよ、担任が人間的に尊敬できないのならば、愛する子どもの前に立たせるわけにはいかない。安易に外部指導者を選んではならないのだ。

担任教師としての子どもへの愛情とプロ教師としての責任感の確かさがあった。これで子どもがよく育たぬわけがない。

低・中・高学年が提示した一連の授業は、それぞれに表現技法が異なり、そのどれもが学年に応じた表現の広がりと深まりを感じさせる。そしてそのすべてが一本の線で繋がっていた。青森の「ねぶた」と「木版画」、地域の誇る版画家「棟方志功」を精神的なバックホーンにして、それらが造形表現の幹となってどっしりと根付いている。そしてその幹に、表現の枝葉を自由自在に繋らせる子どもたちがいる。正に青森らしい自負と自信が息づく授業風景だった。

実践発表の最後に、小学校部会参加者全体を対象にして、文部科学省教科調査官の奥村高明先生の講話があった。いつ作成したのだろう。奥村氏のパソコンを使ってのプレゼントは、この日の授業の映像を用いながら、子どもの学びの有り様を分かりやすく語るものだった。仕事上、如何にプレゼン慣れしているとは申せ、奥村先生のその早業には驚かされる。また、子どもの些細な行動や表現の中から、子どもの思いを掬い上げる目の鋭さと確かさには流石との感がある。今また若い確かな才能が日本の造形教育の中心にあって、新しい造形の未来を担って活躍している姿がそこにあった。だがしかしである。頭の良い方だなあの印象と同時に、漠然とした疑問が脳裏をよぎるのを感ずる。これが真に新しい造形なのか、造形教育の未来なのかと問う時、これではまだまだ小さい、未だに日本の文化教育の全体像が見えてこないといった声が聞こえてくるのだ。奥村調査官には、日本全国でまだ招かれていない県が四県ほどあって秋田もその一つだと言う。奥村高明先生、この有能な若い人材、いずれ機会をとらえて我秋田にもお出で願わねばなるまい。

青森の造形には、その文化的土壌を支えられて、子どもたちが自在に造形を楽しんでいるといった風情がある。青森造形の力とその魅力は、テーマに「ねぶた」、表現に「版画」といった核をしっかりと持ちながら、それが長い年月をかけて先輩から後輩へと受け継がれてきた表現基盤の確かさにあるのだろう。それに比較して我秋田の子どもの表現力は弱い。如何にも力不足の感がある。こうした表現基盤の是弱な秋田の現状に強い危惧を感じているのは私だけではあるまいと思う。帰りの電車に揺られながら頭の中に明滅する思いは一つ、「私達の秋田には何があるのだろう」といった、未だ答えの見えない問である。登るべき山が見えずにしては方略も立つまい。21世紀の新しい文化都市を標榜する秋田。今、私達の秋田には、造形教育を越えた感性教育のグランドでザインの構築が求められているのである。造形教育にできることは何なのか、私達に突き付けられた問は重い。

●木版画共同制作（屏風：４曲１隻部分）※校長室にて

●授業風景（２年）

●授業風景（３年）

●授業風景（６年）

『第52回東北造形研青森大会』から（雑感）

東北造形教育研究大会青森大会／2007年７月26日・27日：青森市

羽深　　進

標記青森大会での私の主な務めは、参観した公開授業と小学校部会の取り組みについての講評を述べることであった。

莨町（たばこまち）小学校の二年生十三名が躍動した“造形遊び”は、大会主題「きらめく感性、ゆたかな創造」の目指すところを、子供たちの活動する姿と担任教師の支援する姿で印象的に具現化することに成功していた。

授業者、司会者、運営責任者と助言者との事前の打ち合わせを前日（７／26）に行い、当日の授業の展開の仕方や研究協議会の持ち方等について確認し合うことができたことで、当日の授業も協議会も充実した内容になったと感じている。

小学校部会の公開授業「うつしてぺったん、たばこまちいんさつ工場」は、子供たちが普段、遊びや生活科の学習でよく使用している生活科ルームで行われた。子供たちが造形遊びの楽しさを全身で味わえるようにと、担任教師は少し広めの生活科ルームを授業会場にしている。授業会場は「たばこまちいんさつ工場」。担任の柴田教諭は「そうじのおばさん」。子供たちは、「しゃちょうさん」・「せんむさん」・「かちょうさん」・「ほけんしゃいん」などの名札を胸につけ、印刷工場で働く人になりきって授業に参加していた。

活動のあめての確認に二分。表現活動には二十分間とちょっと、これまでに製作したカラフルな作品を会場いっぱいに飾る活動には、約十五分間の時間が子供たちに保障された。

莨町小学校の子供たちは、二年生なりに、型おし・紙版画・フロッタージュ・ステンシル・デカルコマニー・スパッタリングなどの版表現の基礎的・基本的な技法を、前時までの五回の授業の中で習得している。本時では、学んだ版表現を活用している自分の表現に生かす「活用型の授業」、「活用型の造形遊び」が見事に展開されていた。

最後に。関係した公開授業の良さに加えて青森大会に参加しての収穫と感じているものは二つ。一つ目は青い森からのメッーセージから拾った言葉であり、二つ目はお二人の先生の講話（講演）であった。

大会要項に盛られた「青い森からのメッセージ」からは、深くて示唆に富む大切な意味を感じ取ることができた。特に、次の二つの主張に新鮮な響きを感じた。

(1)　造形活動（教育）を通してはぐくまれる「きらめく感性」や「豊かな創造性」は、「生きる力」につながる力である。

(2)　造形活動を通して子供たちは、良い生き方とは何かについて考えるものである。

収穫の二つ目については、お二人の先生の講話題のみを記しておきたいと思う。

○遠藤友麗先生（聖徳大学教諭）の講話

『これからの図画工作・美術で重視すべきこと』

～次期学習指導要領改訂の方向性をふまえて～

○奥村高明先生（文科省教科調査官）の講話

『これからの教育改革と図画工作』

すべてが終了してから、あの青森県立美術館に足を運んだ。シャガールの大作と奈良美智の立体作品「あおもり犬」が、私を静かに迎えてくれた。

有意義な二日間であった。

平成19年度　秋田県造形教育研究会　役員一覧

研究部会	所在地	学校名	電話番号	会員数
造形教育	秋田市	秋田市立四ツ小屋小学校	018-839-2050	

役職名	氏名	所属校	役職
会長	近藤久隆	秋田市立　四ツ小屋小学校	校長
副会長	高橋　等	秋田市立　旭南小学校	校長
副会長	澤田眞理子	大館市立　川口小学校	校長
副会長	芦原清巳	羽後町立　明治小学校	校長
顧問	佐藤俊彦	秋田市立　高清水小学校	校長
理事	米澤喜一郎	鹿角市立　平元小学校	校長
理事	佐々木彰子	三種町立　上岩川小学校	校長
理事	新田清志	男鹿市立　男鹿東中学校	校長
理事	播摩優子	八郎潟町立　八郎潟小学校	校長
理事	恩田哲典	由利本荘市立　道川小学校	校長
理事	小原　靖	大仙市立　南外西小学校	校長
理事	石川喜美子	横手市立 南小学校	校長
監事	羽深　進	秋田市立　仁井田小学校	校長
監事	佐藤一彦	秋田市立　河辺中学校	教頭
事務局担当	黒沢　淳	秋田市立　土崎南小学校	教諭

平成19年度　秋田県造形教育研究会名簿

郡市名	学校No	学校名	氏名	役職	郡市役職	電話番号	FAX番号
鹿角	1	花輪小	橋本　忍			0186-23-2007	23-2017
			谷地田　明美				
	2	花輪北小	(本荘 千春 尾小中)久慈由起子			0186-23-2603	23-2617
	3	平元小	米澤　喜一郎	校長	会長	0186-25-2204	25-2268
			櫻庭　久				
	4	市立十和田小	長内　幸子			0186-35-2042	35-2142
	5	尾去沢小	瀬川　正展	教頭	副会長	0186-23-3201	23-3202
			内川　由美子		会計監査		
	6	八幡平小	神　篤志		理事	0186-32-2011	32-2012
			滝澤　政夫		幹事長		
	7	小坂小	櫻庭　晴美			0186-29-2422	29-3102
	8	七滝小	奈良　紀子			0186-29-3475	29-3539
	9	花輪第一中	佐藤　朋子			0186-23-2257	23-2260
	10	花輪第二中学校(尾去沢中、八幡平中兼務)	関　清志		理事	0186-25-2221	25-3266
	11	市立十和田中	工藤　麻衣子		理事	0186-35-2164	35-2165
	12	小坂中	柴田　麻衣		理事	0186-29-3232	29-2003
大館北秋	13	桂城小	永井　孝久	教頭	副会長	0186-42-2262	43-2460
			畠山　直子				
			石河　大介				
	14	城南小	渡辺　俊春			0186-42-3025	42-3295
			谷屋　篤子				
	15	城西小	野呂　郁子			0186-42-3238	49-5389
			津谷　美穂子				
			松沢　朗子				
			成田　道子				
			大高　聖子				
	16	有浦小	塚本　じゅん			0186-42-2834	42-2833
			板垣　友子				
	17	釈迦内小	高橋　智	教頭	副会長	0186-48-2934	48-2936
	18	長木小	小松　文子			0186-48-5158	48-6091
			成田　美保				
			田村　知子				
	19	雪沢小	三澤　正敏			0186-50-2038	50-2264
	20	川口小	澤田　眞理子	校長	会長	0186-42-9762	42-9783
	21	上川沿小	黒澤　正尚	校長	副会長	0186-49-6155	49-6621
			藤嶋　聖人				
			米澤　貴子				
	22	成章小	渡部　幸子			0186-52-2818	52-2812
			仲谷　美奈子				
			竹内　美保子				
	23	大館南小	薮田　典子			0186-49-5518	49-5519
	24	西館小	塚本　定明			0186-55-0324	55-2134
	25	東館小	阿部　英幸			0186-56-2112	56-2070
			山田　陽子				
	26	大葛小	小坂　初枝			0186-57-2003	57-2025
	27	山瀬小	明石　まき子			0186-54-3036	54-6061
			高橋　かすみ				
	28	綴子小	佐藤　たけこ			0186-62-2041	63-2042
	29	竜森小	本間　いま子			0186-66-2530	66-2719
	30	鷹巣中央小	成田　奈津子			0186-62-1558	63-2295
	31	鷹巣西小	大高　洋子			0186-62-1549	63-2397
			藤嶋　幹子				
	32	米内沢小	鎌田　伸博			0186-72-3029	72-4905
	33	阿仁合小	佐々木　久隆	校長	副会長	0186-82-2326	82-2353
	34	大阿仁小	五代　儀基			0186-84-2030	84-2670
			伊藤　美奈子				
			佐藤　千津				
	35	合川東小	浅野　麻実子			0186-78-2105	78-2105

郡市名	学校No	学校名	氏名	役職	郡市役職	電話番号	FAX番号
大館北秋	36	上小阿仁小	木村明美			0186-77-2038	77-2969
	37	大館第一中	木内衛			0186-42-4177	42-6269
			山崎真紀子				
	38	大館第二中	佐々木由美			0186-48-2935	48-3777
	39	大館東中	工藤明美		県研究部員	0186-42-2835	43-5359
	40	比内中	佐々木亜希子			0186-55-1505	55-1789
	41	田代中	糸屋睦子			0186-54-3042	54-6063
	42	鷹巣中	高橋潤			0186-62-1701	63-1893
	43	鷹巣南中	嘉藤貴子		幹事長	0186-63-2255	63-2148
	44	森吉中	松田由佳			0186-73-2335	73-2612
	45	合川中	新田史世			0186-78-2135	78-3509
能代山本	46	渟城西小	榮田裕子		理事	0185-52-2237	89-1315
			大山祐子				
			小田理絵				
	47	渟城南小	田中範子		副会長	0185-52-5329	52-5320
			雄鹿由加里				
	48	第四小	竹内麻里			0185-52-3239	55-0913
	49	第五小	近藤真由美			0185-58-2178	58-2402
	50	向能代小	畠山真知子		理事	0185-52-6249	89-3081
	51	朴瀬小	中川尚美			0185-52-2725	52-2725
	52	崇徳小	豊田良香			0185-58-5004	58-5004
	53	浅内小	三浦知子			0185-52-4715	52-4715
	54	常盤小	木村加奈子		会計監査	0185-59-2004	59-2181
	55	鯉川小	佐藤美奈子			0185-87-3177	87-2413
	56	上岩川小	佐々木彰子	校長	会長	0185-88-2058	72-3105
			水品仁志				
	57	二ツ井小	石川昌子		理事	0185-73-2341	73-2342
	58	富根小	小山由美子			0185-75-2044	71-3500
	59	仁鮒小	小森哉子			0185-73-2955	71-1600
			白鳥郁子				
	60	湖北小	岡真千子		理事	0185-85-3120	85-3253
	61	塙川小	原田亨子			0185-76-3211	76-3247
	62	能代第一中	田森舞		理事	0185-52-2227	52-7386
	63	能代第二中	渡部悦子		理事	0185-52-5138	52-5139
	64	能代東中	岩谷修一		会計監査	0185-58-3050	58-3051
	65	東雲中	石塚博子		理事	0185-52-5119	55-2597
	66	能代南中	田中真二朗			0185-52-6452	52-9220
	67	常盤中	芹田亨		事務局	0185-59-2005	59-2181
	68	二ツ井中	大高絵里奈		理事	0185-73-2711	73-2713
	69	藤里中	鈴木正樹			0185-79-2024	79-1212
	70	八竜中	長浜笑子		副会長	0185-85-2225	85-2479
男鹿	71	船川第一小	吉田啓子			0185-24-3231	24-3232
	72	船川南小	松崎純			0185-24-2380	24-2380
	73	脇本第一小	太田三千代			0185-25-2215	22-2009
	74	五里合小	加藤淳一			0185-34-2410	34-2410
	75	鵜木小	小山田和世			0185-46-2520	46-2520
	76	北陽小	船木鈴子	教頭	副会長	0185-33-2440	33-2833
	77	払戸小	高橋良子			0185-46-2510	46-2510
	78	男鹿北中	伊藤覚			0185-33-2020	33-2581
	79	男鹿東中	新田清志	校長	会長	0185-25-3215	25-3214
			秋本謙逸		幹事長		
潟上南秋	80	五城目小	鳥井敦子			018-852-2050	852-9078
			宮腰勝				
	81	内川小	渡邉寛			018-854-2220	854-2454
	82	大久保小	小林理		運営委員	018-877-2068	877-7300
	83	八郎潟小	播摩優子		部会長	018-875-2721	875-2017
			渡邊真紀				
			嶋崎裕子				

郡市名	学校No	学校名	氏名	役職	郡市役職	電話番号	FAX番号
潟上南秋	84	飯田川小	菅原　恵			018-877-2033	877-2038
			三谷　文				
	85	出戸小	築瀬智美		副部会長	018-878-2205	878-7405
			江畠瑞世				
	86	追分小	齋藤久美子			018-873-3461	873-7079
			宮腰武久				
	87	大潟小	杉原峰子			0185-45-2121	45-3616
			伊藤　晃		運営委員		
	88	五城目一中	近江和佳子		運営委員	018-852-2051	852-4698
	89	天王中	都留賀津人		運営委員	018-878-2222	878-2309
	90	天王南中	中川　努		事務局	018-873-4300	873-3373
	91	羽城中	佐藤廣子		副部会長	018-877-3211	877-3267
秋田	92	築山小	根田篤子			018-833-4305	837-7908
	93	旭南	高橋　等	校長	副会長	018-824-5281	865-6599
	94	牛島小	堀井美希子			018-832-8296	837-7914
	95	川尻小	大野由加里			018-824-2374	865-4667
	96	旭川小	長瀬いずみ			018-832-2862	837-7918
			阿部公美				
			髙木慶子				
	97	港北小	岩野ひとみ			018-845-0056	845-1427
	98	土崎南小	黒沢　淳			018-845-1009	847-2024
	99	高清水小	佐藤俊彦	校長	顧問	018-845-0831	847-1164
			齋藤知佳子				
	100	広面小	中村紀幸			018-833-0736	837-7919
	101	日新小	村山祥子		幹事	018-828-4408	828-0517
			田中恵美子				
	102	山谷小	工藤圭文			018-838-2240	838-2394
	103	外旭川小	松田由紀子		幹事（会計）	018-868-3200	868-4699
	104	飯島小	小松文子		幹事長	018-845-0377	847-1643
	105	仁井田小	羽深　進	校長	副会長	018-839-2350	839-4071
	106	四ツ小屋小	近藤久隆	校長	会長	018-839-2050	839-2964
			加藤義昭	教頭			
	107	下北手小	大久保郁子			018-832-7220	837-7932
	108	勝平小	鈴木登潮			018-823-5660	865-4669
			小野　哲				
	109	勝平小 千秋分校	松田清悦			018-896-4570	862-0122
	110	東小	齋藤美奈子			018-834-9291	837-7921
	111	泉小	横山雄一郎			018-864-8799	865-6577
			一星真理				
	112	桜小	高橋義子			018-833-3375	837-7927
			菊地有希子				
			榎　実和子				
	113	飯島南小	佐藤則子			018-847-1245	847-1605
	114	赤平小	鎌田伸子			018-882-2351	882-4671
	115	河辺小	渡部英明			018-882-3323	882-4672
	116	川添小	細部恵知子			018-886-3333	886-3635
	117	戸米川小	田口香奈美			018-886-2222	886-3638
	118	秋田大附属小	藤井志津子			018-862-2593	862-2598
			進藤　亨				
			小室真紀				
	119	秋田東中	小林さおり			018-833-8261	833-8262
	120	秋田南中	藤田かおる			018-833-8467	833-8468
	121	山王中	佐藤未樹			018-823-8361	823-8363
	122	土崎中	築地亜紀			018-845-0406	845-1251
	123	将軍野中	今野雅子			018-845-1752	845-1778
	124	秋田西中	佐藤　恵			018-828-4644	828-4645
	125	外旭川中	奈良隆一			018-868-3100	868-3193

郡市名	学校No	学校名	氏名	役職	郡市役職	電話番号	FAX番号
秋田	126	秋田北中	宇野佐和子			018-873-2411	873-2020
	127	城南中	加賀谷政広			018-834-2367	834-2368
	128	城東中	鎌田政美			018-834-9281	834-9297
	129	泉中	中村公俊			018-863-8901	863-8902
	130	御野場中	三浦直樹			018-839-0681	839-0682
			中尾裕子				
	131	勝平中	芳賀典子			018-863-7782	863-7784
	132	飯島中	小柳紀恵子			018-846-3481	846-3482
	133	桜中	兎澤みき子			018-837-5305	837-5306
	134	御所野学院中	伊藤知佐子			018-889-8330	826-0200
	135	河辺中	佐藤一彦	教頭		018-882-2321	882-2148
	136	雄和中	三島康子			018-886-2345	886-2165
	137	秋田大附属中	土門正佳			018-862-3350	863-2507
	138	聖霊短大附属中	高橋利子			018-833-7311	833-4503
本荘由利	139	新山小	堀井綾子			0184-22-1420	24-2260
	140	尾崎小	関口琢也		研究委員	0184-24-1236	24-1237
	141	子吉小	宮田幸江			0184-22-4839	23-6623
	142	北内越小	大場則子			0184-22-4839	23-6623
	143	本荘北中	佐々木真樹			0184-22-0321	23-2778
			安保朋子				
	144	本荘南中	佐々木紀子			0184-22-7153	22-7154
			笠原眞奈美				
	145	本荘東中	大野一紀		運営委員	0184-27-2311	27-2315
	146	西目小	高木真紀		会計	0184-33-2305	33-3513
	147	西目中	赤川祐輝		研究委員	0184-33-2304	33-4199
	148	院内小	大平涼子		運営委員	0184-36-2154	37-2818
	149	仁賀保中	菊地邦彦		研究部長	0184-36-2121	36-2122
	150	上郷小	三保知子		会計監査	0184-44-2214	44-2328
	151	象潟中	安保純		事務局	0184-43-2009	43-2089
	152	矢島小	三舩文夫		副部長	0184-56-2069	55-2721
	153	道川小	恩田哲典		部長	0184-73-2216	73-3565
			猿橋早苗				
	154	上川大内小	齋藤千景			0184-67-2244	67-2298
	155	出羽中	三浦陽子			0184-65-2105	65-3929
	156	直根小	大友めぐみ		運営委員	0184-58-2320	58-2321
	157	直根小	三浦秀巳			0184-58-2320	58-2321
			高階千明				
	158	川内小	阿部伸子			0184-57-2004	57-2005
	159	八塩小	柴田薫		副部長	0184-69-2028	69-2215
	160	ゆり養護	石垣幸子			0184-27-2630	22-8706
			佐藤尚人				
			本田勝成				
			由利和也				
大曲仙北	161	大曲小	髙橋良以子			0187-63-1018	63-1019
	162	花館小	鈴木裕子			0187-63-1022	63-1025
	163	藤木小	高橋克明	校長	副会長	0187-65-2420	86-5604
	164	角間川小	佐々木あき子			0187-65-2201	65-2201
			小西綾子				
	165	四ツ屋小	鈴木暢			0187-66-1513	66-1513
	166	横堀小	髙橋香代子			0187-69-2111	69-3068
	167	中仙小	菅原靖		幹事	0187-56-2318	56-3288
	168	清水小	石山瑞穂		幹事	0187-56-3215	56-4676
			佐々木博之				
	169	太田東小	三浦里子			0187-89-1212	89-1272
	170	南外西小	鈴木瑞子			0187-74-2520	74-2620
			小原靖	校長	会長		
	171	刈和野小	三浦典子			0187-75-1014	75-2770
	172	双葉小	佐々木ゆかり			0187-77-2004	77-2009

郡市名	学校No	学校名	氏名	役職	郡市役職	電話番号	FAX番号
大曲仙北	173	稲沢小	簗容子			018-894-2111	881-6009
	174	淀川小	佐藤厚子			018-896-2022	896-2022
	175	船岡小	伊勢さおり			018-893-2014	893-2014
	176	角館西小	藤峰芳子			0187-55-2188	55-2189
	177	中川小	畠山岳丈			0187-53-2286	53-2338
	178	生保内小	佐川由紀子		幹事・研修部	0187-43-0243	43-0247
	179	六郷東根小	保坂範子			0187-84-1282	84-1815
	180	千畑南小	菅原祐子			0187-84-1289	84-1205
	181	仙南東小	安居院由佳			0187-82-1506	82-1029
	182	仙南西小	高幡明子			0187-83-2215	83-2215
			永田縁				
	183	金沢小	鈴木紀子		監事	0182-37-2190	37-2190
	184	大曲中	高橋涼		事務局長	0187-63-2222	63-2221
			佐藤好一				
	185	大曲南中	今井弘子		監事	0187-65-2001	65-2051
	186	仙北中	武田淳子			0187-69-2113	69-3262
	187	中仙中	長澤真由美			0187-56-2328	56-4657
	188	太田中	熊谷留美子			0187-88-2211	88-2212
	189	平和中	菊地伸		事業部	0187-72-2211	72-2227
	190	南外中	芳賀弘子			0187-73-1231	73-1232
	191	西仙北東中	田中武晴			0187-75-2200	75-2735
	192	協和中	澁谷千里	講師		018-892-3025	892-3209
	193	角館中	渡邉真理子		幹事・研修部	0187-53-2411	53-2420
			小林高太郎	教頭	副会長		
	194	生保内中	中村洋人	講師		0187-43-1181	43-3632
	195	六郷中	藤田美保子		監事	0187-84-1420	84-1424
	196	千畑中	渡部直子			0187-85-2222	85-2221
	197	仙南中	高橋真理子			0187-83-2211	83-2600
横手	198	横手南小	高瀬康子		監事	0182-32-1051	33-7566
	199	栄小	黒政東彦			0182-33-5210	33-7565
	200	金沢小	加賀谷良子			0182-37-2150	37-2751
	201	増田小	高橋伴子			0182-45-2014	45-4090
	202	浅舞小	岡部康子			0182-24-1140	24-1102
	203	十文字一小	加納貴子			0182-24-1321	24-3480
	204	十文字二小	松岡直美			0182-42-1025	42-4701
	205	南小	石川貴美子	校長	会長	0182-22-3204	22-3244
	206	大森小	柿崎和美			0182-26-2048	56-4005
			菅原博美				
	207	川西小	奥秀輝	教頭	副会長	0182-26-3259	56-4007
	208	田根森小	斎藤喜久子			0182-52-3105	52-2955
	209	山内小	嶋田良子			0182-53-2207	53-2263
	210	横手南中	柴田緩子			0182-32-3108	33-7568
	211	鳳中	美濃俊幸			0182-32-2028	33-7567
	212	金沢中	西野美佳			0182-37-3390	37-2725
	213	増田中	高橋千麗			0182-45-2350	45-2420
	214	平鹿中	伊藤美枝子		副会長	0182-24-0075	24-0076
	215	十文字中	草彅昇		監事	0182-42-1030	42-4702
	216	雄物川中	佐藤稔		研究部長	0182-22-2163	22-2164
	217	大森中	藤井正輝			0182-26-3462	26-2131
	218	大雄中	高橋輝樹			0182-52-3106	52-3107
	219	山内中	吉沢理		事務局長	0182-53-2208	53-3200
湯沢雄勝	220	湯沢東小	小野裕子			0183-72-5125	72-5126
			佐々木絵里子				
	221	湯沢西小	佐藤智美		事務局	0183-72-5150	72-2681
			齋藤靖子				
			柴田裕彦				
	222	三関小	斎藤悦子	教頭		0183-73-2926	73-8800
			大沼護				

郡市名	学校No	学校名	氏名	役職	郡市役職	電話番号	FAX番号
湯沢雄勝	222	三関小	井上晴子			0183-73-2926	73-8800
	223	山田小	佐藤美紀子			0183-73-3016	72-3834
	224	岩崎小	長雄清美			0183-73-2916	73-2925
	225	湯沢北中	加藤久夫		副会長	0183-72-5127	72-5128
			佐藤裕理子				
	226	山田中	後藤拓哉			0183-73-3017	72-3017
	227	須川中	仙道真理子			0183-79-2511	79-3434
	228	湯沢南中	髙山真理子		理事	0183-73-5145	72-1184
	229	三梨小	柴田さゆり			0183-42-2503	42-2603
			後藤昇				
	230	川連小	藤原和彦			0183-42-2501	42-2601
	231	稲川中	青山則子			0183-42-2160	42-2161
	232	中山小	佐藤義昭	校長	副会長	0183-56-2007	56-2009
			原田満				
			佐藤綾子				
	233	小野小	阿部悦子			0183-52-2263	52-2832
			千田圭子				
	234	雄勝中	長雄義明		事務局	0183-52-2375	52-2314
	235	皆瀬小	池田亜紀			0183-58-4080	58-4081
			吉田多美子				
	236	西馬音内小	小川昌子			0183-62-1768	62-1702
			土谷博済				
			阿部浩子				
	237	三輪小	郡山理理子			0183-62-1216	62-1295
	238	新成小	柴田明佳			0183-62-2235	62-2235
	239	明治小	芦原清巳	校長	会長	0183-62-2270	62-2270
			皆川知子				
	240	田代小	阿部誠子		会計監査	0183-67-2141	67-2141
	241	仙道小	鈴木陽		事務局長	0183-68-2203	68-2203
	242	羽後中	佐藤かよ子		幹事	0183-62-1144	62-1145
	243	三輪中	榊原若樹			0183-62-2306	62-2724
	244	高瀬中	佐藤秀実		会計監査	0183-67-2323	67-2919
	245	東成瀬中	佐藤真一郎			0182-47-2155	47-2245

秋田県造形教育研究会事務局
〒011－0942　秋田県秋田市土崎港東一丁目6-39
TEL　018－845－1009
FAX　018－845－2024
秋田市立土崎南小学校
幹事長　黒　沢　　淳